



System i

プログラミング

DB2 DataPropagator for iSeries V8.1 コマンド

バージョン 6 リリース 1







System i

プログラミング

**DB2 DataPropagator for iSeries V8.1 コマンド**

バージョン 6 リリース 1

**ご注意**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、105 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM DB2 DataPropagator for iSeries V8.1 (プロダクト番号 5761-DP4) のバージョン 6、リリース 1、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： System i  
Programming  
DB2 DataPropagator for iSeries, V8.1 commands  
Version 6 Release 1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

---

## 目次

DPR登録の追加 (ADDDPRREG) . . . . .	1	DPRキャプチャーの初期設定 (INZDPRCAP) . . . . .	69
DPRサブスクリプションの追加 (ADDDPRSUB) . . . . .	13	DPR登録の除去 (RMVDPRREG) . . . . .	73
DPR サブスクリプション・メンバーの追加 (ADDDPRSUBM) . . . . .	33	DPRサブスクリプションの除去 (RMVDPRSUB) . . . . .	75
DPRジャーナル処理の分析 (ANZDPRJRN) . . . . .	47	DPR サブスクリプション・メンバーの除去 (RMVDPRSUBM) . . . . .	81
DPRテーブルの作成 (CRTDPRTBL) . . . . .	51	DPR権限の取り消し (RVKDPRAUT) . . . . .	87
DPR適用の終了 (ENDDPRAPY) . . . . .	55	DPR適用の開始 (STRDPRAPY) . . . . .	89
DPRキャプチャーの終了 (ENDDPRCAP) . . . . .	59	DPRキャプチャーの開始 (STRDPRCAP) . . . . .	97
DPR権限の認可 (GRTDPRAUT) . . . . .	63	付録. 特記事項 . . . . .	105



---

## DPR登録の追加 (ADDDPRREG)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

DPR登録の追加コマンド(ADDDPRREG)によって、ユーザーはソース・テーブルをDATAPROPAGATORで使用するために登録することができます。ソース・テーブルは、使用中のシステムまたはリモート・システムに置くことができます。それがリモート・システム上にある場合には、リモート・ジャーナル処理を使用するための登録をセットアップする必要があります。これは、SRCTBLRDBパラメーターを使用し、ソース・テーブルが常駐するリモート・リレーショナル・データベースを識別することによって行います。

- ・注：項目が画面自身またはヘルプ情報にアスタリスクを付けて表示されていない場合には、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

---

## ADDDPRREGのエラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN2051

登録拡張テーブルが認可されていません。

#### ASN2501

テーブルの登録を認可されていません。

#### ASN3020

ソース・テーブルの登録が完了しました。

#### ASN3027

テーブルは\*BOTHイメージではジャーナル処理されません。

#### ASN3036

カラムが見つかりません。

#### ASN3055

テーブルの変更をキャプチャーすることはできません。

#### ASN3069

相対レコード番号をキャプチャーすることはできません。

#### ASN3075

集計ソース・テーブルに対して相対レコード番号をキャプチャーすることはできません。

#### ASN3115

リレーショナル・データベースがi5/OS V4R2以上になっていません。

#### ASN3116

ライブラリーのリモート・ジャーナルが見つかりません。

#### ASN3121

ソース・テーブル・ジャーナルがRMTJRNパラメーターからのデータと一致しません。

**ASN3122**

SRCTBLRDBパラメーターでは論理ファイルであるリモート・ソース・テーブルを指定することはできません。

**ASN3125**

ローカル・リレーショナル・データベースがi5/OS V4R2以降になっていません。

**ASN3213**

基本タイプの基本属性が正しくありません。

**ASN3217**

集計基本タイプでCAPRRN(\*YES)は正しくありません。CAPRRNパラメーターに値\*YESは正しくありません。

**ASN3219**

CAPCOLパラメーターの値が\*NONEの時にはCAPRRNパラメーターに\*NOを指定しなければなりません。

**ASN3230**

ソース・テーブルRDBが\*LOCALの場合にはリモート・ジャーナル名を指定することはできません。

**ASN3238**

ソース・テーブルにはソース・タイプに正しいカラムが含まれていません。

**ASN3249**

相対レコード番号のカラムIBMQSQ\_RRNが使用できません。

**ASN3254**

テーブルの登録はすでに存在しています。

**ASN3279**

ビュー・テーブルのカラムが副選択ストリングより多くなっています。

**ASN3280**

ビューの副選択ストリングから関連名が脱落しています。

**ASN3281**

ビューの副選択ストリングからファイル名が脱落しています。

**ASN3284**

FROMGUIが\*YESである時にはSQLFILEが\*NONEであってはなりません。

**ASN3285**

FROMGUIが\*YESである時にはMSGFILEが\*NONEであってはなりません。

**ASN3286**

SQLFILEとMSGFILEの名前が同じです。

**ASN3292**

登録テーブルが見つかりませんでした。

上



## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SRCTBL	ソース・テーブル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ソース・テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
CAPCTLLIB	キャプチャー制御ライブラリー	名前, <u>ASN</u>	オプション
CDLIB	CDテーブルのライブラリー	名前, <u>*SRCTBL</u>	オプション
CDNAME	CDテーブルの名前	名前, <u>*DEFAULT</u>	オプション
SRCTYPE	ソース・テーブル・タイプ	<u>*USERTABLE</u> , <u>*POINTINTIME</u> , *CCD, *BASEAGR, *CHANGEAGR, *REPLICA, *USERCOPY	オプション
REFRESH	全面再生成許可	<u>*YES</u> , *NO	オプション
TEXT	テキスト ☒記述 ☒	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
CAPCOL	キャプチャー・カラム	単一値: *ALL, *NONE その他の値 (最大 300 回の繰 り返し): 文字値	オプション
CAPRRN	相対レコード番号の取り込み	*YES, <u>*NO</u>	オプション
IMAGE	レコード・イメージ	<u>*AFTER</u> , *BOTH	オプション
PREFIX	接頭部文字	文字値, <u>*DEFAULT</u> , *NULL	オプション
CONDENSED	圧縮済み	<u>*YES</u> , *NO, *AGGREGATE	オプション
COMPLETE	完了	<u>*YES</u> , *NO	オプション
FROMGUI	GUIからのコマンド	<u>*NO</u> , *YES	オプション
SQLFILE	SQL出力ファイル	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
MSGFILE	メッセージ出力ファイル	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
SRCTBLRDB	ソース・テーブルRDB	名前, <u>*LOCAL</u>	オプション
RMTJRN	リモート・ジャーナル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: リモート・ジャーナル	名前, <u>*SRCTBL</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
CONFLICT	矛盾したレベル	<u>*NONE</u> , *STANDARD, *ENHANCED	オプション
UPDELINS	削除/挿入を使用した更新	<u>*NO</u> , *YES	オプション
GENCDROW	変更データ行の生成	<u>*ALLCHG</u> , *REGCOLCHG	オプション
RECAP	変更の再キャプチャー	*NO, <u>*YES</u>	オプション
STOPONERR	エラーで停止	<u>*NO</u> , *YES	オプション

上

## ソース・テーブル (SRCTBL)

ソース・テーブルとして登録するテーブルを識別します。これは必須パラメーターです。このテーブルは、外部で定義された任意の単一様式の物理ファイル、i5/OSライブラリー内のビュー、または収集とすることができます。

SRCTYPE(\*POINTINTIME)を指定する場合には、テーブルに固有のキーが必要であり、キー・フィールド中のデータは変更できません。

変更をキャプチャーするには、また、ジャーナル処理を両方のイメージで開始することも必要です。すなわち、IMAGES(\*BOTH)を指定した物理ファイル・ジャーナル開始(STRJRNPf)コマンドを実行しなければなりません。

#### ライブラリー名/テーブル名

登録するテーブルの修飾名。このソース・テーブルをリモート・ジャーナル処理を使用してジャーナリングするようにセットアップしている場合には、これはリモート・システム上のソース・テーブルの名前です。

上

---

## キャプチャー制御ライブラリー (CAPCTLLIB)

キャプチャー制御テーブルが入っているライブラリーを指定します。

**ASN** キャプチャー制御テーブルが入っている省略時のライブラリーであるASNを指定します。

#### ライブラリー名

キャプチャー制御テーブルが入っているライブラリーの名前。このライブラリーは、存在しており、CAPCTLLIBパラメーターにそのライブラリーを指定したCRTDPRTBLコマンドを使用して作成されていることが必要です。

上

---

## CDテーブルのライブラリー (CDLIB)

変更データ(CD)テーブルが作成されるライブラリーの名前を指定します。

#### \*SRCTBL

ソース・テーブルが常駐するライブラリーの中に変更データ・テーブルを作成します。

#### ライブラリー名

指定されたライブラリーの中に変更データ・テーブルを作成します。そのライブラリーが存在しない場合には、エラーが生成されます。

上

---

## CDテーブルの名前 (CDNAME)

変更データ(CD)テーブルの名前を指定します。このテーブルはすでに存在してはなりません。これは、CDLIBパラメーターで指定されたライブラリーの中に作成されます。

#### \*DEFAULT

省略時の命名規則を使用して変更データ・テーブルを作成します。省略時の名前には、それを固有のものにするための日付および時刻スタンプが含まれます。

**CD名** 変更データ・テーブルの名前を指定します。

上

---

## ソース・テーブル・タイプ (SRCTYPE)

登録中のソース・テーブルのタイプを指定します。特定時点、基本集合、変更集合、複製、およびCCDタイプは、サブスクリプションの作成時にユーザーのためにオプションで登録されるDATAPROPAGATORのターゲット・テーブルです。すでに存在しているターゲット・テーブルへの登録時に、指定されたソース・テーブルについて指示されたIBMSNAPカラムがそのターゲット・テーブルに含まれていない場合には、登録は失敗します。

### \*USERTABLE

テーブルはユーザー・データベース・テーブルです。これは、ユーザーが登録するテーブルの最も共通したタイプです。テーブルには、DATAPROPAGATORのカラム識別コードであるIBMSNAPで始まるカラムを含めることはできません。

リモート・ジャーナル処理を使用する場合には、ソース・テーブルがこのタイプでなければなりません。

### \*POINTINTIME

テーブルは特定時点コピーであり、その内容はソース・テーブルの全部または一部と一致していて、ソース・システムで特定の行が挿入または更新された時点を検出する追加のシステム・カラムがあります。このテーブルには、IBMSNAP\_LOGMARKER\_TIMESTAMPカラムの含まれていることが必要であり、IBMQSQ\_RRNと呼ばれるINTEGERカラムをオプションで含めることができます。

### \*BASEAGR

テーブルは基本集合コピーであり、そこには、ユーザー・テーブルまたは特定時点テーブルから一定の間隔で集合されたデータが含まれます。このテーブルには、IBMSNAP\_HLOGMARKERおよびIBMSNAP\_LLOGMARKER\_TIMESTAMPカラムの含まれていることが必要です。

### \*CHANGEAGR

テーブルは変更集合コピーであり、そこには、ソース・テーブルについて記録された変更に基づいたデータ集合が含まれます。このテーブルには、IBMSNAP\_HLOGMARKERおよびIBMSNAP\_LLOGMARKER\_TIMESTAMPカラムの含まれていることが必要です。

\*CCD 省略時の値は一貫性のあるコピーであり、そこには、ソース・テーブルからのトランザクションの一貫性のあるデータが含まれます。このテーブルには、次のカラムの含まれていることが必要です。

- IBMSNAP\_LOGMARKER CHAR(10) FOR BIT DATA NOT NULL
- IBMSNAP\_OPERATION CHAR(1) NOT NULL
- IBMSNAP\_COMMITSEQ CHAR(10) FOR BIT DATA NOT NULL
- IBMSNAP\_LOGMARKER\_TIMESTAMP NOT NULL

このテーブルには、IBMQSQ\_RRNと呼ばれるINTEGERカラムをオプションで含めることができます。

### \*REPLICA

このテーブルは複製サブスクリプション用のターゲット・テーブルであり、ターゲット・テーブルからの変更を元のソース・テーブルにフィードバックできるように登録されます。このテーブルには、元のソース・テーブルからのカラムもすべて含まれます。テーブルには、DATAPROPAGATORのカラム識別コードであるIBMSNAPまたはIBMQSQで始まるカラムを含めることはできません。

上

---

## 全面再生成許可 (REFRESH)

登録が全面再生成機能をサポートするかどうかを決定します。

この値を使用して、適用処理の機能をオフにし、ソース・テーブルからの全面再生成を実行することができます。

**\*YES** ソース・テーブルを使用して、ターゲット・テーブルを全面再生成することができます。

**\*NO** ソース・テーブルを使用して、ターゲット・テーブルを全面再生成することはできません。

上

---

## テキスト記述 (TEXT)

登録項目と関連したテキスト記述。

### **\*NONE**

項目と関連した記述はありません。

**記述** 50文字までのテキストをアポストロフィで囲んで指定します。

上

---

## キャプチャー・カラム (CAPCOL)

この登録について変更がキャプチャーされるカラムを指定します。

**\*ALL** すべてのカラムの変更がキャプチャーされます。

### **\*NONE**

このテーブルの変更はキャプチャーされません。この値は、登録について変更キャプチャー活動は実行したくないこと、および全面再生成のためにのみ登録済みのテーブルが必要であることを指定するために使用します。この登録では変更データ(CD)テーブルは作成されず、キャプチャー処理によってテーブルの変更がキャプチャーされることはありません。

### カラム名

変更がキャプチャーされる300個までのカラムを指定します。

上

---

## 相対レコード番号の取り込み (CAPRRN)

変更されたそれぞれのレコードの相対レコード番号をキャプチャーするかどうかを指定します。

**\*NO** 相対レコード番号はキャプチャーされません。

**\*YES** 相対レコード番号がキャプチャーされます。IBMQSQ\_RRNと呼ばれる追加のカラムが変更データ(CD)テーブルに作成されます。

SRCTYPE(\*USERTABLE)が指定された場合には、IBMQSQ\_RRNカラムがソース・テーブルに存在してはなりません。キャプチャー活動中に、IBMQSQ\_RRNカラムは、変更されたそれぞれのソース・テーブル・レコードの相対レコード番号によって更新されます。

SRCTYPE(\*USERTABLE)が指定されない場合には、IBMQSQ\_RRNカラムがソース・テーブルに存在していなければなりません。キャプチャー活動中に、CDテーブル中のIBMQSQ\_RRNカラムは、ソース・テーブル中のIBMQSQ\_RRNカラムからの値を使用して更新されます。

SRCTYPE(\*REPLICA)が指定された場合には、CAPRRNパラメーターを\*NOに設定する必要があります。

上

---

## レコード・イメージ (IMAGE)

変更データ・テーブルに、ソース・テーブルに対する変更の事前イメージと事後イメージの両方が含まれるかどうかを指定します。これは、カラムのキャプチャー(CAPCOL)パラメーターに指定されたすべてのカラムにグローバルに適用されます。このパラメーターに\*AFTERを指定した場合であっても、ソース・テーブルは\*BOTHイメージを使用してジャーナル処理する必要があります。

この値は、CAPCOL(\*NONE)が指定された場合は無効です。

### **\*AFTER**

ソース・テーブルの事後イメージだけが変更データ・テーブルで保持されます。

### **\*BOTH**

ソース・テーブルの事前イメージと事後イメージの両方が変更データ・テーブルで保持されます。

上

---

## 接頭部文字 (PREFIX)

接頭部文字を使用して、ソース・テーブルの事前イメージのキャプチャー時に、変更データ・テーブル固有のカラム名を作成します。この名前は、ADDDPRSUBまたはADDDPRSUBMコマンドのCOLUMNパラメーターで使用することができます。

### **\*DEFAULT**

接頭部は使用されません。省略時の接頭部(@)が使用されます。

### **\*NULL**

ヌルの接頭部が指定された場合には、ソース・テーブルからの事前イメージがキャプチャーされることは決してありません。

**文字** オブジェクト名の中で有効な任意の英字。

接頭部文字によって事前イメージ・カラム名が既存の事後イメージ・カラム名と同じになった場合には、コマンドはエラーで終了します。

上

---

## 圧縮済み (CONDENSED)

ソース・テーブルが圧縮されるかどうかを指定します。このことは、テーブルに現行データが入っていて、テーブルのそれぞれの1次キーの値に1行を超えるものがないことを意味しています。

**\*YES** ソース・テーブルは圧縮され、各1次キーの値ごとに1行だけが含まれます。

**\*NO** ソース・テーブルは圧縮されずに、各1次キーの値ごとに複数の行が含まれます。

## \*AGGREGATE

ソース・テーブル・タイプは\*BASEAGR（基本集合）か\*CHANGEAGR（変更集合）のどちらかです。この値が使用された場合には、COMPLETEパラメーターは\*NOに設定しなければなりません。

上

---

## 完了 (COMPLETE)

ソース・テーブルは完全かどうかを指定します。このことは、テーブルにすべての1次キーの値に対して1行が入っていることを意味しています。

**\*YES** ソース・テーブルは完全で、各1次キーの値ごとに1行が含まれます。

**\*NO** ソース・テーブルは完全でなく、各1次キーの値ごとに1行は含まれません。

上

---

## GUIからのコマンド (FROMGUI)

複製センター・グラフィカル・ユーザー・インターフェースによって使用されるパラメーター。

上

---

## SQL出力ファイル (SQLFILE)

複製センター・グラフィカル・ユーザー・インターフェースによって使用されるパラメーター。

上

---

## メッセージ出力ファイル (MSGFILE)

複製センター・グラフィカル・ユーザー・インターフェースによって使用されるパラメーター。

上

---

## ソース・テーブルRDB (SRCTBLRDB)

ソース・テーブルが常駐するリレーショナル・データベースの名前を指定します。リモート・リレーショナル・データベース名を指定することによって、リモート・ジャーナル処理を使用するソース・テーブルに対する登録をセットアップします。

リモート・ジャーナル処理をキャプチャー処理とともに使用して、ソース・テーブルが常駐するシステム上のシステム使用状況を制限することができます。これは、ソース・テーブルがリモート・ジャーナル処理される先のシステムでそのソース・テーブルを登録（およびADDDPRREGコマンドを実行）することによって行います。

言い換えると、ユーザーがこのコマンドを実行したシステム上にソース・テーブルがあり、変更がこのシステム上のテーブルにもジャーナル処理された場合には、リモート・ジャーナル処理は使用していません。ソ

ース・テーブルが、ユーザーがこのコマンドを実行したシステム以外のシステム上にあり、変更がこのローカル・システムにジャーナル処理された場合には、リモート・ジャーナル処理を使用しています。

#### **\*LOCAL**

ソース・テーブルはこのシステム上にあります。

#### **リレーショナル・データベース名**

ソース・テーブルがあるリレーショナル・データベース(RDB)の名前を指定します。指定するRDBは、i5/OSバージョン4リリース2以降を実行中のシステム用のものでなければなりません。

このソース・テーブルにリモート・ジャーナル処理を使用している場合には、ソース・テーブルがあるシステム上のRDBの名前を指定してください。

この登録にリモート・ジャーナル処理を使用していない場合には、ローカルRDBの名前を指定するか、あるいは省略時の値の\*LOCALのままにしてください。

上

---

## **リモート・ジャーナル (RMTJRN)**

ソース・テーブルがリモートである（すなわち、ソース・テーブルがこのシステムにリモートにジャーナル処理されるようにセットアップされる）場合には、リモート・ソース・テーブルに対する変更の宛先となるこのシステム上のジャーナルの名前を指定します。

リモート・ジャーナル処理を使用していない場合には、\*SRCTBLを指定しなければなりません。

#### **\*SRCTBL**

ジャーナルの名前は、ソース・テーブルと関連したローカル・ジャーナルと同じです。ソース・テーブルがローカルである（すなわち、SRCTBLRDBパラメーターの値が\*LOCALである）場合には、この値を使用しなければなりません。

#### **ライブラリー名/ジャーナル名**

リモート・ソース・テーブルのジャーナル処理に使用される、このシステム上のジャーナルの修飾名を指定します。ライブラリー名は、ソース・テーブル・ジャーナルが常駐するライブラリーと同じである必要はありません。ただし、ジャーナル名は\*SRCTBLであるか、あるいはソース・テーブルのジャーナル名と同じであることが必要です。

上

---

## **矛盾したレベル (CONFLICT)**

サブスクリプションのどこでも更新の実行中に行われる矛盾検出のレベルを指定します。

#### **\*NONE**

矛盾検出は実行されません。これは、どこでも更新は使用されないすべてのテーブルに必要な値です。

#### **\*STANDARD**

適用プログラムが複製変更データ・テーブルの中にすでにキャプチャーされている行から矛盾を検索する、適度の矛盾検出。

#### **\*ENHANCED**

すべての複製およびソース・テーブルの間で最良のデータ保全性を提供する矛盾検出。

---

## 削除／挿入を使用した更新 (UPDDELINS)

更新済みデータの処理方法を決定します。ソース・テーブルとの間で挿入または削除されるデータは、このパラメーターの影響は受けません。ターゲット・テーブルのキー・フィールドがアプリケーションによって変更されている場合には、UPDDELINS(\*YES)を指定してください。

- \*NO** ソース・テーブルに対して行われた更新は、変更データ・テーブルにステージングされます。この変更は更新として適用されます。
- \*YES** ソース・テーブルに対して行われた更新は、削除と挿入の対としてキャプチャーされます。次に、適用によって既存の行は削除され、新しい行が挿入されます。

---

## 変更データ行の生成 (GENCDROW)

変更データ・テーブルにコピーする必要がある、ジャーナルからの変更を指定します。

### **\*ALLCHG**

ソース・テーブルのジャーナルから、すべての挿入、更新、および削除レコードが変更データ・テーブルにコピーされます。

### **\*REGCOLCHG**

登録済みのカラムが変更されたジャーナル項目をコピーします。変更が変更データ・テーブルの中にあるカラムに対するものであった場合には、それらの変更はキャプチャーされません。

---

## 変更の再キャプチャー (RECAP)

適用によってテーブルに対して行われた変更をキャプチャーによって再キャプチャーするかどうかを指定します。

- \*YES** 適用によってソース・テーブルに対して行われた変更がキャプチャーされ、変更データ・テーブルに現れます。
- \*NO** 適用によってソース・テーブルに対して行われた変更はキャプチャーされず、変更データ・テーブルには現れません。

---

## エラーで停止 (STOPONERR)

エラーが検出された時にキャプチャーを停止するかどうかを指定します。

- \*NO** キャプチャーは、エラー・メッセージが出され、そのエラーの原因となった登録が非活動化された後も処理を続行します。
- \*YES** エラーが検出された場合には、キャプチャーがエラー・メッセージを出し、処理を完全に停止します。



---

**例**

なし

---

**エラー・メッセージ****\*ESCAPEメッセージ****ASN2051**

登録拡張テーブルが認可されていません。

**ASN2501**

テーブルの登録を認可されていません。

**ASN3020**

ソース・テーブルの登録が完了しました。

**ASN3027**

テーブルは\*BOTHイメージではジャーナル処理されません。

**ASN3036**

カラムが見つかりません。

**ASN3055**

テーブルの変更をキャプチャーすることはできません。

**ASN3069**

相対レコード番号をキャプチャーすることはできません。

**ASN3075**

集計ソース・テーブルに対して相対レコード番号をキャプチャーすることはできません。

**ASN3115**

リレーショナル・データベースがi5/OS V4R2以上になっていません。

**ASN3116**

ライブラリーのリモート・ジャーナルが見つかりません。

**ASN3121**

ソース・テーブル・ジャーナルがRMTJRNパラメーターからのデータと一致しません。

**ASN3122**

SRCTBLRDBパラメーターでは論理ファイルであるリモート・ソース・テーブルを指定することはできません。

**ASN3125**

ローカル・リレーショナル・データベースがi5/OS V4R2以降になっていません。

**ASN3213**

基本タイプの基本属性が正しくありません。

**ASN3217**

集計基本タイプでCAPRRN(\*YES)は正しくありません。CAPRRNパラメーターに値\*YESは正しくありません。

**ASN3219**

CAPCOLパラメーターの値が\*NONEの時にはCAPRRNパラメーターに\*NOを指定しなければなりません。

**ASN3230**

ソース・テーブルRDBが\*LOCALの場合にはリモート・ジャーナル名を指定することはできません。

**ASN3238**

ソース・テーブルにはソース・タイプに正しいカラムが含まれていません。

**ASN3249**

相対レコード番号のカラムIBMQSQ\_RRNが使用できません。

**ASN3254**

テーブルの登録はすでに存在しています。

**ASN3279**

ビュー・テーブルのカラムが副選択ストリングより多くなっています。

**ASN3280**

ビューの副選択ストリングから相関名が脱落しています。

**ASN3281**

ビューの副選択ストリングからファイル名が脱落しています。

**ASN3284**

FROMGUIが\*YESである時にはSQLFILEが\*NONEであってはなりません。

**ASN3285**

FROMGUIが\*YESである時にはMSGFILEが\*NONEであってはなりません。

**ASN3286**

SQLFILEとMSGFILEの名前が同じです。

**ASN3292**

登録テーブルが見つかりませんでした。

上

---

## DPRサブスクリプションの追加 (ADDDPRSUB)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

DPRサブスクリプション追加(ADDDPRSUB)コマンドは、空のサブスクリプション・セットを作成します。ソースおよびターゲット・テーブルを指定した場合には、これによって、指定したメンバーもセットに追加されます。ソース・テーブルは、DPR登録追加(ADDDPRREG)コマンドを使用して登録済みであることが必要です。

ADDDPRSUBコマンドは、登録済みソース・テーブルのカラム定義を読み取り、CRTTGTBLパラメーターが\*YESとして指定されていれば、それらを使用してターゲット・テーブルを自動的に作成します。CRTTGTBLパラメーターが\*NOとして指定されている場合には、既存のテーブルが使用されます。

TGTBLパラメーターに指定されたライブラリーにジャーナルまたはジャーナル・レシーバーがない場合には、それらが作成されます。ジャーナルはQSQRNと呼ばれます。ジャーナル・レシーバーはQSQRN NNNN と呼ばれます。ここで、NNNN は他のジャーナル・レシーバーが存在しなければ0001となり、使用可能な名前が見つかるまで1ずつ増やされます。

ターゲット・テーブルがサブスクリプション中に作成された場合には、そのターゲット・テーブルはQSQRNジャーナルにジャーナル処理されます。それ以外の場合には、ターゲット・テーブルのジャーナル処理を別個にセットアップする必要があります。

ADDREGパラメーターの値が\*YESである場合に、ADDDPRSUBコマンドは、また、別のサブスクリプションのソース・テーブルとなる可能性があるターゲット・サーバー上で、そのターゲット・テーブルを自動的に登録します。これは 自動登録 と呼ばれます。

このコマンドは、i5/OS環境のみをサポートし、DATAPROPAGATORをサポートする他のデータベースはサポートしません。

- 注：項目が画面自身またはヘルプ情報にアスタリスクを付けて表示されていない場合には、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

---

## ADDDPRSUBのエラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN1038

カラム名または式が指定されていません。

#### ASN2051

登録拡張テーブルが認可されていません。

#### ASN2501

テーブルの登録を認可されていません。

#### ASN303A

行選択項目の式が正しくありません。

- ASN3036**  
カラムが見つかりません。
- ASN3037**  
カラムはすでに存在しています。
- ASN3039**  
カラムはすでに存在しています。
- ASN3041**  
カラム関数を使用することはできません。
- ASN3042**  
カラムの名前を変更することはできません。
- ASN3047**  
モジュールで内部エラー。
- ASN3068**  
ターゲット・タイプにはキー・カラムが必要です。
- ASN3074**  
ターゲット・タイプでKEYCOL(IBMQSQ\_RRN)は正しくありません。
- ASN3078**  
ターゲット・ファイルがサブスクリプションと一致していません。
- ASN3079**  
ターゲット・ファイルに正しいカラムが含まれていません。
- ASN3115**  
リレーショナル・データベースがi5/OS V4R2以上になっていません。
- ASN3210**  
TGTTYPEが\*POINTINTIMEである時には、UNIQUEは\*YESでなければなりません。
- ASN3218**  
このターゲット・タイプの場合には、KEYCOLパラメーターに値\*RRNは使用できません。
- ASN3220**  
このターゲット・タイプの場合には、KEYCOLパラメーターに値\*NONEは使用できません。
- ASN3231**  
TGTTYPEが\*REPLICAである時には、UNIQUEは\*YESでなければなりません。
- ASN3232**  
TGTTYPEが\*USERCOPYである時には、UNIQUEは\*YESでなければなりません。
- ASN3233**  
TGTTYPEが\*REPLICAである時には、COLUMNは\*ALLでなければなりません。
- ASN3235**  
TGTTYPEが\*REPLICAである時には、CALCCOLは\*NONEでなければなりません。
- ASN3241**  
ターゲット・テーブルが間違っただけのタイプとして登録されています。
- ASN3251**  
サブスクリプションはすでに適用修飾子セット名に存在しています。

- ASN3253**  
テーブルの登録が見つかりません。
- ASN3254**  
テーブルの登録はすでに存在しています。
- ASN3256**  
サブスクリプション・セット・テーブルは認可されていません。
- ASN3257**  
サブスクリプション・メンバー・テーブルは認可されていません。
- ASN3258**  
サブスクリプション・カラム・テーブルは認可されていません。
- ASN3259**  
サブスクリプション・ステートメント・テーブルは認可されていません。
- ASN3262**  
ソースおよびターゲットが無効です。
- ASN3263**  
プルーニング制御テーブルは認可されていません。
- ASN3265**  
適用修飾子セット名のサブスクリプション・セットが作成されました。
- ASN3267**  
セットのすべてのメンバーが同じジャーナルからのものではありません。
- ASN3274**  
相対レコード番号はキャプチャーされていません。
- ASN3275**  
レコード番号カラムIBMQSQ\_RRNが使用できません。
- ASN3277**  
のソース・テーブルにはカラムが含まれています。
- ASN3278**  
TGTTYPEが\*REPLICAである時には、TGTCOLは\*COLUMNでなければなりません。
- ASN3283**  
TGTTYPEが\*REPLICAである時にはソース・テーブルをビューにすることはできません。
- ASN3288**  
SRCTBLとTGTTBLの両方が\*NONEでなければなりません。
- ASN3290**  
コミット・カウントがゼロより小さくなっています。
- ASN3291**  
登録拡張子テーブルが見つかりません。
- ASN3292**  
登録テーブルが見つかりませんでした。
- ASN3293**  
プルーニング制御テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4512**

サブスクリプション設定テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4514**

サブスクリプション・ステートメント・テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4518**

サブスクリプション・メンバー・テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4520**

サブスクリプション・カラム・テーブルが見つかりませんでした。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
APYQUAL	修飾子の適用	名前	必須, 定位置 1
SETNAME	セット名	名前	必須, 定位置 2
TGTTBL	ターゲット・テーブル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ターゲット・テーブル	名前, * <u>NONE</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
SRCTBL	ソース・テーブル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 4
	修飾子 1: ソース・テーブル	名前, * <u>NONE</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
CTLSVR	制御サーバー	名前, * <u>LOCAL</u>	オプション, 定位置 3
SRCSVR	ソース・サーバー	名前, * <u>LOCAL</u>	オプション
CAPCTLLIB	キャプチャー制御ライブラリー	名前, <u>ASN</u>	オプション
TGTCCLIB	ターゲット・キャプチャー制御ライブラリー	名前, * <u>CAPCTLLIB</u>	オプション
TGTTYPE	ターゲット・タイプ	* <u>USERCOPY</u> , * <u>REPLICA</u> , * <u>POINTINTIME</u> , * <u>BASEAGR</u> , * <u>CHANGEAGR</u> , * <u>CCD</u>	オプション
TIMING	再生成のタイミング	* <u>INTERVAL</u> , * <u>EVENT</u> , * <u>BOTH</u>	オプション
EVENT	イベント名	名前, * <u>NONE</u>	オプション
INTERVAL	反復間隔	値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 数値	1-60, <u>1</u>	
	要素 2: 間隔	* <u>WEEK</u> , * <u>DAY</u> , * <u>HOUR</u> , * <u>MIN</u>	
KEYCOL	キー・カラム	単一値: * <u>SRCTBL</u> , * <u>RRN</u> , * <u>NONE</u> その他の値 (最大 120 回の繰り返し): 文字値	オプション
ACTIVATE	サブスクリプションの活動化	* <u>YES</u> , * <u>NO</u>	オプション
CRTTGTTBL	ターゲット・テーブルの作成	* <u>YES</u> , * <u>NO</u>	オプション
CHKFMT	ターゲット・テーブル様式の検査	* <u>YES</u> , * <u>NO</u>	オプション
COLUMN	ソース・カラム	単一値: * <u>ALL</u> , * <u>NONE</u> その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
UNIQUE	固有キー	*YES, *NO	オプション
TGTCOL	ターゲット・カラム	単一値: *COLUMN その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: カラム	文字値	
	要素 2: 新しいカラム	文字値	
CALCCOL	計算カラム	単一値: *NONE その他の値 (最大 100 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: カラム	文字値	
	要素 2: 式	文字値	
ROWSLT	行選択項目式	文字値, *ALL	オプション
SQLBEFORE	前に実行するSQL	単一値: *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: SQLステートメント	文字値	
	要素 2: 実行するサーバー	名前, *SRCSVR, *TGTSVR	
	要素 3: 使用可能なSQL状態	単一値: *NONE その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 000000-0FFFFFFF	
SQLAFTER	後に実行するSQL	単一値: *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: SQLステートメント	文字値	
	要素 2: 実行するサーバー	名前, *SRCSVR, *TGTSVR	
	要素 3: 使用可能なSQL状態	単一値: *NONE その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 000000-0FFFFFFF	
MAXSYNCH	最大同期時間	値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 数値	0-60, 0	
	要素 2: 間隔	*WEEK, *DAY, *HOUR, *MIN	
CMTCNT	コミット・カウント	整数, *DEFAULT, *NULL	オプション
TGTKEYCHG	ターゲット・キーの変更	文字値, *NO, *YES	オプション
ADDREG	DPR登録の追加	*YES, *NO	オプション
FEDSVR	統合サーバー	文字値, *NONE	オプション

上

## 修飾子の適用 (APYQUAL)

適用修飾子を指定します。この適用修飾子は、同じ適用インスタンスによって実行されるサブスクリプションをグループ化するために使用される名前です。適用修飾子名には最大18文字を指定することができます。この名前は、RDB名と同じ命名規則に従っています。

上

---

## セット名 (SETNAME)

適用プログラムによりグループとして処理されるターゲット・テーブルのグループ（サブスクリプション・セット・メンバー）を識別するセット名を指定します。これは適用修飾子のもとで固有のものでなければなりません。ADDDPRSUBコマンドの指定の適用修飾子にすでにセット名が存在していた場合には、エラーの結果となります。適用プログラムは、セット中のターゲット・テーブルを1つのグループとして処理します。1つのターゲット・テーブルが何らかの理由で失敗した場合には、セット全体が失敗します。

上

---

## ターゲット・テーブル (TGTTBL)

ターゲット・テーブルの名前を識別します。CRTTGTTBLパラメーターに\*YESの値が指定され、ターゲット・テーブルがまだ存在していない場合には、それが自動的に作成されます。

### \*NONE

空のサブスクリプション・セットを作成します。これは、いかなるメンバーも含まないサブスクリプション・セットです。この値が使用された場合には、SRCTBLパラメーターも\*NONEでなければなりません。空のセットにメンバーを追加するには、DPRサブスクリプション・メンバー追加 (ADDDPRSUBM) コマンドを使用することができます。

ライブラリー／ターゲット・テーブル名  
ターゲット・テーブルの修飾名。

上

---

## ソース・テーブル (SRCTBL)

コピー元にしたソース・テーブルを識別します。これは必須パラメーターです。

ソース・テーブルは、物理的にシステム上に存在している必要はありませんが、ユーザーがSRCSVRキーワードによって識別されたそのシステム上で登録したテーブルを指します。

### \*NONE

空のサブスクリプション・セットを作成します。これは、いかなるメンバーも含まないサブスクリプション・セットです。この値が使用された場合には、TGTTBLパラメーターも\*NONEでなければなりません。空のセットにメンバーを追加するには、DPRサブスクリプション・メンバー追加 (ADDDPRSUBM) コマンドを使用することができます。

ライブラリー／ソース・テーブル名  
コピーするソース・テーブルの修飾名。

上

---

## 制御サーバー (CTLSVR)

適用制御テーブルが存在しているリレーショナル・データベース名。これは、制御サーバーのリレーショナル・データベース名です。

### \*LOCAL

適用制御テーブルは、ローカル・リレーショナル・データベースにあります。



## **RDB名**

適用制御テーブルが常駐しているリレーショナル・データベース名。RDBディレクトリー項目処理(WRKRDBDIRE)コマンドをデータ・サーバー上で使用して、この名前を検索することができます。適用制御テーブルが、ADDDPRSUBコマンドの実行されているシステム上にある場合には、RDB名はそれと関連した\*LOCALのリモート・ロケーションを持つリレーショナル・データベース名です。

上

---

## **ソース・サーバー (SRCSVR)**

ソース・テーブルが登録されるリレーショナル・データベース名。ソース・テーブルは、そのシステム上に物理的に存在することも、存在しないこともあります。これは、ソース・サーバーのリレーショナル・データベース名です。

### **\*LOCAL**

ソース・テーブルの登録は、ローカル・リレーショナル・データベースにあります。

## **RDB名**

ソース・テーブルが登録されるリレーショナル・データベース名。RDBディレクトリー項目処理(WRKRDBDIRE)コマンドをデータ・サーバー上で使用して、この名前を検索することができます。ソース・サーバーとターゲット・サーバーが同じである場合には、RDB名はそれと関連した\*LOCALのリモート・ロケーションを持つリレーショナル・データベース名です。それ以外の場合には、RDB名は、ソース・サーバー上にそれと関連した\*LOCALのリモート・ロケーションを持つリレーショナル・データベース名です。

上

---

## **キャプチャー制御ライブラリー (CAPCTLLIB)**

キャプチャー制御テーブルが入っているライブラリーを指定します。これは、ソース・テーブルに対する登録のあるIBMSNAP\_REGISTERテーブルを含むライブラリーです。

**ASN** キャプチャー制御テーブルが入っている省略時のライブラリーであるASNを指定します。

### **ライブラリー名**

キャプチャー制御テーブルが入っているライブラリーの名前。

上

---

## **ターゲット・キャプチャー制御ライブラリー (TGTCCLIB)**

キャプチャー制御テーブルが入っているターゲット・キャプチャー制御ライブラリーを指定します。これは、自動登録時にターゲット・テーブルが登録されるIBMSNAP\_REGISTERテーブルを含むライブラリーです。

自動登録が使用されない場合には、なお、このパラメーターによって指定された値がIBMSNAP\_SUBS\_SETテーブルに入れられます。したがって、ターゲット・テーブルを手操作で登録する場合には、ここで指定した値をDPR登録追加(ADDDPRREG)コマンドのCAPCTLLIBパラメーターで使用しなければなりません。

## **\*CAPCTLLIB**

ターゲット・キャプチャー制御ライブラリーはCAPCTLLIBパラメーターに指定されたライブラリーと同じになることを指定します。

## **ライブラリー名**

キャプチャー制御テーブルが入っているライブラリーの名前。

上

---

## **ターゲット・タイプ (TGTTYPE)**

ターゲット・テーブルの再生成に使用されるコピーのタイプを示します。これらは、ターゲット・テーブルの内容を記述するDATAPROPAGATORの用語です。ターゲット・テーブルがこれらのタイプの1つとして作成された後で、DPR登録追加(ADDDPRREG)コマンドのSRCTBLパラメーターにこのパラメーター値を使用して、このターゲット・テーブルをソース・テーブルとして登録することができます。

## **\*USERCOPY**

ターゲット・テーブルはユーザー・コピーです。ユーザー・コピーは、所定の時刻にその内容がソース・テーブルの全部または一部と一致するターゲット・テーブルです。ユーザー・コピーは特定時点のコピーと同様に処理されますが、それは特定時点のターゲット・テーブルに存在するDataPropagatorのオーバーヘッド・カラムは含んでいません。

KEYCOLパラメーターに\*RRNの値が指定されている場合には、この値は無効です。

## **\*POINTINTIME**

ターゲット・テーブルは特定時点のコピーです。特定時点のコピーは、所定の時刻にその内容がソース・テーブルの全部または一部と一致するターゲット・テーブルです。

ターゲット・テーブルが特定時点のコピーである場合には、また、KEYCOLパラメーターに固有のキー・フィールドを指定し、UNIQUEパラメーターには\*YESの値を指定しなければなりません。

## **\*REPLICA**

ターゲット・テーブルは複製です。ターゲット・テーブルには、ソース・テーブルからの1つのカラムのみが含まれます。このテーブルには、DATAPROPAGATORのカラム識別コードであるIBMSNAPまたはIBMQSQで始まるカラムは含まれません。

このターゲット・テーブルは、どこかに更新がある場合にのみ使用されます。ターゲット・テーブルはソース・テーブルから変更を受け取り、ターゲット・テーブルに対する変更は、ソース・テーブルに伝搬し戻されます。

このテーブルはソース・テーブルとして自動的に登録されます。また、ターゲット・テーブルからのデータをソース・テーブルに伝搬し戻せるように、サブスクリプション制御テーブルには追加の行が入られます。

**\*CCD** ターゲット・テーブルは一貫性のあるコピーです。一貫性のあるコピーは、ソース・テーブルのトランザクション整合状態を反映するターゲット・テーブルです。

## **\*BASEAGR**

ターゲット・テーブルは基本集合です。基本集合は、ソース・テーブルまたは特定時点テーブルから集合されたデータを含むターゲット・テーブルです。

## **\*CHANGEAGR**

ターゲット・テーブルは変更集合です。変更集合は、ソース・テーブルについて記録された変更に基づくデータ集合を含むターゲット・テーブルです。

---

## 再生成のタイミング (TIMING)

セットにサービスを提供するために適用を使用すべきタイミングのタイプを記述します。

### **\*INTERVAL**

適用は指定された間隔でセットにサービスを提供します。たとえば、1日に一回などです。

### **\*EVENT**

適用は、特定の名前付きイベントが起こった時にセットにサービスを提供します。

### **\*BOTH**

適用は、特定の間隔でか、あるいは名前付きイベントが起こった時にセットにサービスを提供します。

---

## イベント名 (EVENT)

イベントを表すために使用される固有の文字ストリング。この文字ストリングは、IBMSNAP\_SUBS\_EVENTテーブルで記述されたイベントと一致している必要があります。

### **\*NONE**

タイミングにイベントは使用されません。

### イベント名

イベントを表す固有の文字ストリング。

---

## 反復間の間隔 (INTERVAL)

ターゲット・テーブルの再生成の間の時間間隔を週、日、時間、および分で指定します。これは、2つの部分からなる値です。最初の部分の数値は開始時刻から開始時刻までの時間間隔を指定し、2番目の値は次の1つとなります:

**\*MIN** 時間間隔は分数で指定されます。

### **\*HOUR**

時間間隔は時間数で指定されます。

**\*DAY** 時間間隔は日数で指定されます。

### **\*WEEK**

時間間隔は週数で指定されます。

これらの値を組み合わせることで指定することができます。たとえば、((2 \*WEEK) (3 \*DAY) (35 \*MIN))は、2週間、3日、および35分の時間間隔を指定します。同じ値の複数のインスタンスを指定した場合には、最後のオカレンスが使用されます。

---

## キー・カラム (KEYCOL)

ターゲット・テーブルのキーを記述するカラムのリストを定義します。カラム名は非修飾でなければなりません。特定時点、複製、およびユーザー・コピーのターゲット・テーブル(TGTTYPEパラメーターで指定されます) の場合には、固有のキー・フィールドを指定しなければなりません。

### **\*SRCTBL**

ターゲット・テーブルのキー・カラムはソース・テーブルのキー・カラムと同じです。ソース・テーブルがキー付きである場合には、ADDDPRSUBにはそのソース・テーブルに指定されたキーが使用されます。次のキー・カラムが使用されます。

- 物理ファイル作成(CRTPF)コマンドを使用したテーブルの作成時に、DDSを通じて定義されたキー・カラム
- CREATE TABLEおよびALTER TABLE SQLステートメントを使用して定義された1次および固有キー
- CREATE INDEX SQLステートメントを使用して定義された固有キー

カラムがキーとして異なる順序で複数回使用される場合には、ターゲット・テーブルのキーは昇順で定義されます。

**\*RRN** ターゲット・テーブルのキー・カラムはIBMQSQ\_RRNカラムです。ターゲット・テーブルはIBMQSQ\_RRNカラムによって作成され、このカラムがキーとして使用されます。適用構成要素の実行時に、ソース・テーブルがユーザー・テーブルであり、ターゲット・テーブルが特定時点または一貫性のあるコピーであった場合に、ターゲット・テーブルのIBMQSQ\_RRNカラムは、ソース・テーブル中の関連したレコードの相対レコード番号によって更新されます。それ以外の場合には、ターゲット・テーブルのIBMQSQ\_RRNカラムはソース・テーブルのIBMQSQ\_RRNカラムの値によって更新されます。

### **\*NONE**

ターゲット・テーブルに1次キーは含まれません。ターゲット・テーブルが特定時点、複製、またはユーザー・コピー・サブスクリプションである場合には、この値は使用できません。

### カラム名

120個までのカラム名のリスト。

上

---

## サブスクリプションの活動化 (ACTIVATE)

サブスクリプション・レコードが活動状態であるかどうかを判別します。このパラメーターの値が\*YESでなければ、コピーはソースの値から更新されません。

**\*YES** サブスクリプションは活動状態です。

**\*NO** サブスクリプションは活動状態ではありません。このフィールドの値が\*YESでなければ、コピーは更新されません。

上

---

## ターゲット・テーブルの作成 (CRTTGTTBL)

ターゲット・テーブルを作成するかどうかを指定します。

**\*YES** ターゲット・テーブルが存在していない場合にそれを作成します。テーブルがすでに存在している場合には、それがターゲット・テーブルとして使用され、CHKFMTパラメーターの値が\*YESである場合には、その様式が検査されます。ターゲット・テーブルをビューとすることができます。ターゲット・テーブルがビューである場合には、索引は作成されません。ターゲット・テーブルが存在していて、KEYCOLおよびUNIQUEパラメーターによって指定された値と一致する索引がすでに存在している場合には、追加の索引は作成されません。ターゲット・テーブルが存在していて、索引が作成された場合に、そのターゲット・テーブルにこれらの索引に違反するレコードが含まれていると、コマンドは失敗することになります。

**\*NO** ターゲット・テーブルを作成しません。テーブルが存在する必要はありません。それが存在しない場合には、適用構成要素を開始する前に、正しい様式のテーブルを作成する必要があります。

テーブルが存在していて、CHKFMT(\*YES)が指定された場合には、ADDDPRSUBコマンドで、既存のテーブルの様式がサブスクリプションと一致するかどうかを確認されます。CHKFMT(\*NO)を指定した場合には、既存のテーブルの様式がサブスクリプションと一致するかどうかを確認する必要があります。

上

---

## ターゲット・テーブル様式の検査 (CHKFMT)

このサブスクリプションについて定義されたカラムがターゲット・テーブル中のカラムと一致するかどうかを確認するための検査を実行する必要があるかどうかを指定します。このパラメーターは、CRTTGTTBLパラメーターの値が\*YESである場合、あるいはCRTTGTTBLパラメーターの値が\*NOであって、ターゲット・テーブルが存在していない場合には、無視されます。

**\*YES** このサブスクリプションについて定義されたカラムがターゲット・テーブル中のカラムと一致するかどうかを確認するための検査が実行されます。ミスマッチが検出された場合には、コマンドは失敗します。

**\*NO** サブスクリプションと既存のターゲット・テーブルの間の差異は無視されます。ターゲット・テーブルにサブスクリプションとの互換性があることを確認しなければなりません。

上

---

## ソース・カラム (COLUMN)

ターゲット・テーブルに組み込むカラムのリストを定義します。カラム名は非修飾でなければなりません。登録済みソース・テーブルのCAPCOLパラメーターに指定されたカラム名のリストからカラム名を選択してください。

登録済みソース・テーブルのIMAGEパラメーターに\*BOTHが指定されていた場合には、事前カラム名を指定することができます。事前イメージ・カラム名は元のカラム名と同じですが、それらには、ソース・テーブルでの登録を作成したADDDPRREGコマンドのPREFIXパラメーターに指定された文字による接頭部が付けられます。

**\*ALL** 登録済みソース・テーブルに対するDPR登録追加(ADDDPRREG)コマンドのCAPCOLパラメーターに指定されたすべてのカラムが組み込まれます。

**\*NONE**

カラムは組み込まれません。CALCCOLパラメーターの式に合計関数（たとえば、SUMまたはAVG）

が含まれている場合には、この値が必要です。この理由のために、基本集合および変更集合サブスクリプションでは、このパラメーターの\*NONEであることが必要な場合がよくあります。

#### カラム名

300個までのカラム名のリスト。

上

---

## 固有キー (UNIQUE)

ターゲット・テーブルに、KEYCOLパラメーターで指定された固有キーが含まれるかどうかを指定します。

**\*YES** ターゲット・テーブルでは、キー当たり1つの最終的な変更がサポートされます。すなわち、キーに対していくつ変更が行われても、ターゲット・テーブルにはそのキーについて1行のみが存在します。特定時点、複製、ユーザー・コピー、および圧縮された一貫性のあるテーブルには固有キーが必要です。

**\*NO** ターゲット・テーブルはキー当たり複数の変更をサポートします。変更がターゲット・テーブルに追加されます。圧縮されない一貫性のあるテーブルには、この値を指定しなければなりません。

上

---

## ターゲット・カラム (TGTCOL)

ターゲット・テーブル中で更新されるカラムの新しい名前を定義します。これらの名前は、ソース・テーブル中のカラム名を指定変更します。カラム名は非修飾でなければなりません。このパラメーターを使用して、より意味のある名前をターゲット・テーブルのカラムに与えることができます。

COLUMNパラメーターに\*NONEの値を指定した場合には、このパラメーターは使用しないようにしてください。

#### **\*COLUMN**

ターゲット・カラムは、COLUMNパラメーターで指定されたものと同じです。

#### カラム名

300個までのカラム名のリスト。

#### 新しい名前

300個までの新しいカラム名のリスト。

上

---

## 計算カラム (CALCCOL)

ターゲット・テーブル中のユーザー定義または計算カラムのリストを定義します。カラム名は非修飾でなければなりません。SQL式を指定することができます。カラム名はそれぞれの式に必要です。このパラメーターでSQLカラム関数を使用したい場合には、COLUMNパラメーターに\*NONEの値を指定しなければなりません。

#### **\*NONE**

計算カラムは指定されません。

## カラム名

100個までのカラム名のリスト。

式 100個までのSQLカラム式のリスト。

上

---

## 行選択項目式 (ROWSLT)

ターゲット・テーブルの中で維持される行を選択するためにSQL WHERE文節に入れる述部を定義します。

注: このパラメーターのWHERE文節には、SQLBEFOREおよびSQLAFTERパラメーターに指定されたどのWHERE文節とも関連性がありません。

**\*ALL** ソース・テーブルのすべての行が選択されます。

### WHERE文節

SQL WHERE文節。このパラメーターではWHEREキーワードが暗黙に指定されるので、それを指定しないようにしてください。この文節を実行中のデータ・サーバー・プラットフォーム上で、WHERE文節が有効であることを確認しなければなりません。

システム命名規則ではなくSQL命名規則を使用する必要があります。SQLテーブル参照は、システム命名規則( LIBRARY/TABLE )ではなく様式 LIBRARY.TABLE でなければなりません。

上

---

## 前に実行するSQL (SQLBEFORE)

適用処理がターゲット・テーブルを再生成する前に実行するSQLステートメントを指定します。

### **\*NONE**

SQLステートメントは指定されません。

### SQLステートメント

適用処理がターゲット・テーブルを再生成する前に、3つまでのSQLステートメントを実行することができます。このパラメーターは、次の3つの要素から構成されます。

要素 1: SQLステートメント

#### SQLステートメント

実行したいSQLステートメント。使用されたSQL構文が、このステートメントが実行されるプラットフォームで正しいことを確認しなければなりません。DATAPROPAGATORは、このステートメントの実行時に構文が適切であるかどうかを検査しません。さらに、SQL命名規則を使用することが必要です。SQLテーブル参照は、システム命名規則( LIBRARY/TABLE )ではなく様式 LIBRARY.TABLE でなければなりません。

要素 2: 実行するサーバー

### **\*SRCSVR**

SQLステートメントは、ソース・テーブルがあるソース・サーバーで実行されます。

### **\*TGTSVR**

SQLステートメントは、ターゲット・テーブルがあるターゲット・サーバーで実行されます。

要素 3: 可能なSQL状態

#### \*NONE

0000以外のSQL状態の値は正常と見なされません。

#### **SQL状態**

1から10までの間のSQL状態のリスト。これは、00000-FFFFFの範囲の5桁の16進数です。

SQLステートメントが00000のSQLSTATE値またはこのパラメーターでリストしたいいずれかの値で完了した場合には、それが正常に行われたと見なされ、適用処理によるサブスクリプションの処理が続行されます。有用と考えられるいくつかのSQL状態の値を以下にリストします。

- 02000。更新または削除のための行が見つからない。
- 01567。テーブルは作成されたが、ジャーナル処理されていない。
- 01504。更新または削除にWHERE文節が含まれていない。
- 42710。テーブルはすでに存在している。
- 42704。テーブルが見つからない。

上

---

## 後に実行するSQL (SQLAFTER)

適用処理がターゲット・テーブルを再生成した後に実行するSQLステートメントを指定します。

#### \*NONE

SQLステートメントは指定されません。

#### **SQLステートメント**

適用処理がターゲット・テーブルを再生成した後に、3つまでのSQLステートメントを実行することができます。このパラメーターは、次の3つの要素から構成されます。

要素 1: SQLステートメント

#### **SQLステートメント**

実行したいSQLステートメント。使用されたSQL構文が、このステートメントが実行されるプラットフォームで正しいことを確認しなければなりません。DATAPROPAGATORは、このステートメントの実行時に構文が適切であるかどうかを検査しません。さらに、SQL命名規則を使用することが必要です。SQLテーブル参照は、システム命名規則(LIBRARY/TABLE)ではなく様式 LIBRARY.TABLE でなければなりません。

要素 2: 実行するサーバー

#### **\*TGTSVR**

SQLステートメントは、ターゲット・テーブルがあるターゲット・サーバーで実行されます。事後SQLの場合には、これがSQLステートメントを実行できる唯一のサーバーです。

要素 3: 可能なSQL状態

#### \*NONE

0000以外のSQL状態の値は正常と見なされません。

#### **SQL状態**

1から10までの間のSQL状態のリスト。これは、00000-FFFFFの範囲の5桁の16進数です。



SQLステートメントが00000のSQLSTATE値またはこのパラメーターでリストしたいいずれかの値で完了した場合には、それが正常に行われたと見なされ、適用処理によるサブスクリプションの処理が続行されます。有用と考えられるいくつかのSQL状態の値を以下にリストします。

- 02000。更新または削除のための行が見つからない。
- 01567。テーブルは作成されたが、ジャーナル処理されていない。
- 01504。更新または削除にWHERE文節が含まれていない。
- 42710。テーブルはすでに存在している。
- 42704。テーブルが見つからない。

上

---

## 最大同期時間 (MAXSYNCH)

サブスクリプション・サイクル中に取り出して適用する変更データの量を規制するための時間限界値の限度となる最大同期時間（分数）を指定します。

これは、2つの部分からなる値です。最初の部分の数値は時間間隔を指定し、2番目の値は次の1つとなります:

**\*MIN** 時間間隔は分数で指定されます。

**\*HOUR**

時間間隔は時間数で指定されます。

**\*DAY** 時間間隔は日数で指定されます。

**\*WEEK**

時間間隔は週数で指定されます。

これらの値を組み合わせることで指定することができます。たとえば、((3 \*DAY) (35 \*MIN))は、3日および35分の時間間隔を指定します。同じ値の複数のインスタンスを指定した場合には、最後のオカレンスが使用されます。

上

---

## コミット・カウント (CMTCNT)

適用がコミットを実行する前に処理するトランザクションの数であるコミットメント・カウントを指定します。

**\*DEFAULT**

使用する値をコマンドが決定します。TGTTYPEが\*REPLICAである場合には、CMTCNTはゼロ(0)に設定されます。それ以外の場合には、NULLに設定されます。

**\*NULL**

このセットは参照保全のない読み取り専用であることを示します。サブスクリプション・セットに関するすべてのデータが処理された後に、1つのCOMMITが実行されます。

## トランザクション数

TGTTYPERが\*REPLICAである場合にのみ有効。適用によってCOMMITが出される前に、適用するトランザクションの数を指定します。

上

---

## ターゲット・キーの変更 (TGTKEYCHG)

ターゲット・キーの変更を指定します。これは、ターゲット・テーブルの1次キーのためのカラムがソース・テーブルで変更された場合の、適用プログラムによる更新の処理方法を示すフラグです。

**\*NO** ソース・テーブルに対する更新はターゲット・テーブルに対する更新として処理されます。

**\*YES** 適用プログラムは、1次キー・カラムの事前イメージに基づいてターゲット・テーブルを更新します。ソース・テーブルが登録済みであった場合には、USEDELINSパラメーターも\*NOに設定しなければなりません。また、ソース・テーブルはIMAGE(\*BOTH)を使用して登録されている必要があります。

上

---

## DPR登録の追加 (ADDREG)

ターゲット・テーブルをDATAPROPAGATORのためのソース・テーブルとして登録するかどうかを指定します。このパラメーターは、TGTTYPERが\*REPLICAである場合にはターゲット・テーブルがソース・テーブルとして自動的に登録されるので、無視されます。

**\*NO** ターゲット・テーブルは登録されません。

TGTTYPERが\*REPLICAである場合には、この値は無視されて、ターゲットがソース・テーブルとして登録されます。

ターゲット・テーブルがすでに登録済みである場合には、ターゲット・テーブルとソース・テーブルが同じテーブルでないことを確認するための検査は行われません。

**\*YES** ターゲット・テーブルはソース・テーブルとして登録されます。ターゲット・テーブルがすでに登録済みである場合には、コマンドは失敗します。

テーブルが存在せず、CRTTGTBLパラメーターの値が\*NOである場合には、ターゲット・テーブルは登録されません。さらに、TGTTYPERパラメーターの値が\*USERCOPYである場合も、ターゲット・テーブルは登録されません。

ターゲット・テーブルが存在し、\*USERCOPY以外のターゲット・タイプであって、すでに登録済みであった場合に、コマンドは、登録のソース・タイプがサブスクリプションのターゲット・タイプと同じであることを確認するための検査を行います。

上

---

## 統合サーバー (FEDSVR)

このサブスクリプションのためのソースであるDATAJOINERリモート・サーバーの名前を指定します。

**\*NONE**

ソース・サーバーはDATAJOINERリモート・サーバーではありません。

## サーバー名

DATAJOINERリモート・サーバーの名前。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN1038

カラム名または式が指定されていません。

#### ASN2051

登録拡張テーブルが認可されていません。

#### ASN2501

テーブルの登録を認可されていません。

#### ASN303A

行選択項目の式が正しくありません。

#### ASN3036

カラムが見つかりません。

#### ASN3037

カラムはすでに存在しています。

#### ASN3039

カラムはすでに存在しています。

#### ASN3041

カラム関数を使用することはできません。

#### ASN3042

カラムの名前を変更することはできません。

#### ASN3047

モジュールで内部エラー。

#### ASN3068

ターゲット・タイプにはキー・カラムが必要です。

#### ASN3074

ターゲット・タイプでKEYCOL(IBMQSQ\_RRN)は正しくありません。

#### ASN3078

ターゲット・ファイルがサブスクリプションと一致していません。

#### ASN3079

ターゲット・ファイルに正しいカラムが含まれていません。

**ASN3115**

リレーショナル・データベースがi5/OS V4R2以上になっていません。

**ASN3210**

TGTTYPEが\*POINTINTIMEである時には、UNIQUEは\*YESでなければなりません。

**ASN3218**

このターゲット・タイプの場合には、KEYCOLパラメーターに値\*RRNは使用できません。

**ASN3220**

このターゲット・タイプの場合には、KEYCOLパラメーターに値\*NONEは使用できません。

**ASN3231**

TGTTYPEが\*REPLICAである時には、UNIQUEは\*YESでなければなりません。

**ASN3232**

TGTTYPEが\*USERCOPYである時には、UNIQUEは\*YESでなければなりません。

**ASN3233**

TGTTYPEが\*REPLICAである時には、COLUMNは\*ALLでなければなりません。

**ASN3235**

TGTTYPEが\*REPLICAである時には、CALCCOLは\*NONEでなければなりません。

**ASN3241**

ターゲット・テーブルが間違ったタイプとして登録されています。

**ASN3251**

サブスクリプションはすでに適用修飾子セット名に存在しています。

**ASN3253**

テーブルの登録が見つかりません。

**ASN3254**

テーブルの登録はすでに存在しています。

**ASN3256**

サブスクリプション・セット・テーブルは認可されていません。

**ASN3257**

サブスクリプション・メンバー・テーブルは認可されていません。

**ASN3258**

サブスクリプション・カラム・テーブルは認可されていません。

**ASN3259**

サブスクリプション・ステートメント・テーブルは認可されていません。

**ASN3262**

ソースおよびターゲットが無効です。

**ASN3263**

プルーニング制御テーブルは認可されていません。

**ASN3265**

適用修飾子セット名のサブスクリプション・セットが作成されました。

**ASN3267**

セットのすべてのメンバーが同じジャーナルからのものではありません。

**ASN3274**

相対レコード番号はキャプチャーされていません。

**ASN3275**

レコード番号カラムIBMQSQ\_RRNが使用できません。

**ASN3277**

のソース・テーブルにはカラムが含まれています。

**ASN3278**

TGTTYPEが\*REPLICAである時には、TGTCOLは\*COLUMNでなければなりません。

**ASN3283**

TGTTYPEが\*REPLICAである時にはソース・テーブルをビューにすることはできません。

**ASN3288**

SRCTBLとTGTTBLの両方が\*NONEでなければなりません。

**ASN3290**

コミット・カウントがゼロより小さくなっています。

**ASN3291**

登録拡張子テーブルが見つかりません。

**ASN3292**

登録テーブルが見つかりませんでした。

**ASN3293**

プルーニング制御テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4512**

サブスクリプション設定テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4514**

サブスクリプション・ステートメント・テーブルが見つけられませんでした。

**ASN4518**

サブスクリプション・メンバー・テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4520**

サブスクリプション・カラム・テーブルが見つかりませんでした。

上



---

## DPR サブスクリプション・メンバーの追加 (ADDDPRSUBM)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

DPRサブスクリプション・メンバー追加(ADDDPRSUBM)コマンドは、メンバーを既存のサブスクリプション・セットに追加します。ソース・テーブルは、DPR登録追加(ADDDPRREG)コマンドを使用して登録済みであることが必要です。ADDDPRSUBMコマンドは、登録済みソース・テーブルのカラム定義を読み取り、CRTTGTTBLパラメーターが\*YESとして指定されていれば、それらを使用してターゲット・テーブルを自動的に作成します。CRTTGTTBLパラメーターが\*NOとして指定されている場合には、既存のテーブルが使用されます。

TGTTBLパラメーターに指定されたライブラリーにジャーナルまたはジャーナル・レシーバーがない場合には、それらが作成されます。ジャーナルはQSQRNと呼ばれます。ジャーナル・レシーバーはQSQRN NNNN と呼ばれます。ここで、NNNN は他のジャーナル・レシーバーが存在しなければ0001となり、使用可能な名前が見つかるまで1ずつ増やされます。

ターゲット・テーブルがサブスクリプション中に作成された場合には、そのターゲット・テーブルはQSQRNジャーナルにジャーナル処理されます。それ以外の場合には、ターゲット・テーブルのジャーナル処理を別個にセットアップする必要があります。

ADDREGパラメーターの値が\*YESである場合に、ADDDPRSUBMコマンドは、また、別のサブスクリプションのソース・テーブルとなる可能性があるターゲット・サーバー上で、そのターゲット・テーブルを自動的に登録します。これは 自動登録 と呼ばれます。

このコマンドは、i5/OS環境のみをサポートし、DATAPROPAGATORをサポートする他のデータベースはサポートしません。

- 注：項目が画面自身またはヘルプ情報にアスタリスクを付けて表示されていない場合には、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

---

### ADDDPRSUBMのエラー・メッセージ

#### \*ESCAPEメッセージ

##### ASN1038

カラム名または式が指定されていません。

##### ASN2051

登録拡張テーブルが認可されていません。

##### ASN2501

テーブルの登録を認可されていません。

##### ASN303A

行選択項目の式が正しくありません。

##### ASN3036

カラムが見つかりません。

- ASN3037**  
カラムはすでに存在しています。
- ASN3039**  
カラムはすでに存在しています。
- ASN3041**  
カラム関数を使用することはできません。
- ASN3042**  
カラムの名前を変更することはできません。
- ASN3047**  
モジュールで内部エラー。
- ASN3068**  
ターゲット・タイプにはキー・カラムが必要です。
- ASN3072**  
相対レコード番号はキャプチャーされていません。
- ASN3073**  
レコード番号カラムIBMQSQ\_RRNが使用できません。
- ASN3074**  
ターゲット・タイプでKEYCOL(IBMQSQ\_RRN)は正しくありません。
- ASN3078**  
ターゲット・ファイルがサブスクリプションと一致していません。
- ASN3079**  
ターゲット・ファイルに正しいカラムが含まれていません。
- ASN3115**  
リレーショナル・データベースがi5/OS V4R2以上になっていません。
- ASN3210**  
TGTTYPEが\*POINTINTIMEである時には、UNIQUEは\*YESでなければなりません。
- ASN3218**  
このターゲット・タイプの場合には、KEYCOLパラメーターに値\*RRNは使用できません。
- ASN3220**  
このターゲット・タイプの場合には、KEYCOLパラメーターに値\*NONEは使用できません。
- ASN3231**  
TGTTYPEが\*REPLICAである時には、UNIQUEは\*YESでなければなりません。
- ASN3232**  
TGTTYPEが\*USERCOPYである時には、UNIQUEは\*YESでなければなりません。
- ASN3233**  
TGTTYPEが\*REPLICAである時には、COLUMNは\*ALLでなければなりません。
- ASN3235**  
TGTTYPEが\*REPLICAである時には、CALCCOLは\*NONEでなければなりません。
- ASN3241**  
ターゲット・テーブルが間違ったタイプとして登録されています。



- ASN3253**  
テーブルの登録が見つかりません。
- ASN3254**  
テーブルの登録はすでに存在しています。
- ASN3256**  
サブスクリプション・セット・テーブルは認可されていません。
- ASN3257**  
サブスクリプション・メンバー・テーブルは認可されていません。
- ASN3258**  
サブスクリプション・カラム・テーブルは認可されていません。
- ASN3262**  
ソースおよびターゲットが無効です。
- ASN3263**  
プルーニング制御テーブルは認可されていません。
- ASN3266**  
適用修飾子セット名のサブスクリプション・セットが存在していません。
- ASN3267**  
セットのすべてのメンバーが同じジャーナルからのものではありません。
- ASN3268**  
適用修飾子セット名のサブスクリプション・メンバーが作成されました。
- ASN3269**  
メンバーはすでに存在しています。
- ASN3277**  
のソース・テーブルにはカラムが含まれています。
- ASN3278**  
TGTTYPEが\*REPLICAである時には、TGTCOLは\*COLUMNでなければなりません。
- ASN3283**  
TGTTYPEが\*REPLICAである時にはソース・テーブルをビューにすることはできません。
- ASN3290**  
コミット・カウントがゼロより小さくなっています。
- ASN3291**  
登録拡張子テーブルが見つかりません。
- ASN3292**  
登録テーブルが見つかりませんでした。
- ASN3293**  
プルーニング制御テーブルが見つかりませんでした。
- ASN4512**  
サブスクリプション設定テーブルが見つかりませんでした。
- ASN4518**  
サブスクリプション・メンバー・テーブルが見つかりませんでした。

サブスクリプション・カラム・テーブルが見つかりませんでした。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
APYQUAL	修飾子の適用	名前	必須, 定位置 3
SETNAME	セット名	名前	必須, 定位置 4
TGTTBL	ターゲット・テーブル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ターゲット・テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
SRCTBL	ソース・テーブル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ソース・テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
CTLSVR	制御サーバー	名前, <u>*LOCAL</u>	オプション
SRCSVR	ソース・サーバー	名前, <u>*LOCAL</u>	オプション
TGTTYPE	ターゲット・タイプ	<u>*USERCOPY</u> , *REPLICA, *POINTINTIME, *BASEAGR, *CHANGEAGR, *CCD	オプション
KEYCOL	キー・カラム	単一値: <u>*SRCTBL</u> , *RRN, *NONE その他の値 (最大 120 回の繰 り返し): 文字値	オプション
CRTTGTTBL	ターゲット・テーブルの作成	<u>*YES</u> , *NO	オプション
CHKFMT	ターゲット・テーブル様式の検 査	<u>*YES</u> , *NO	オプション
COLUMN	ソース・カラム	単一値: <u>*ALL</u> , *NONE その他の値 (最大 300 回の繰 り返し): 文字値	オプション
UNIQUE	固有キー	<u>*YES</u> , *NO	オプション
TGTCOL	ターゲット・カラム	単一値: <u>*COLUMN</u> その他の値 (最大 300 回の繰 り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: カラム	文字値	
	要素 2: 新しいカラム	文字値	
CALCCOL	計算カラム	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 100 回の繰 り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: カラム	文字値	
	要素 2: 式	文字値	
ROWSLT	行選択項目式	文字値, <u>*ALL</u>	オプション
TGTKEYCHG	ターゲット・キーの変更	文字値, <u>*NO</u> , *YES	オプション
ADDREG	DPR登録の追加	<u>*YES</u> , <u>*NO</u>	オプション

上

---

## 修飾子の適用 (APYQUAL)

適用修飾子を指定します。この適用修飾子は、同じ適用インスタンスによって実行されるサブスクリプションをグループ化するために使用される名前です。適用修飾子名には最大18文字を指定することができます。この名前は、RDB名と同じ命名規則に従っています。この名前は、IBMSNAP\_SUBS\_SETテーブル中にすでに存在していなければなりません。

上

---

## セット名 (SETNAME)

適用プログラムによりグループとして処理されるターゲット・テーブルのグループ（サブスクリプション・セット・メンバー）を識別するセット名を指定します。これは適用修飾子のもとで固有のものでなければなりません。セット名がIBMSNAP\_SUBS\_SETテーブル中にまだ存在していない場合には、エラーの結果となります。適用プログラムは、セット中のターゲット・テーブルを1つのグループとして処理します。1つのターゲット・テーブルが何らかの理由で失敗した場合には、セット全体が失敗します。

上

---

## ターゲット・テーブル (TGTTBL)

ターゲット・テーブルの名前を識別します。CRTTGTTBLパラメーターに\*YESの値が指定され、ターゲット・テーブルがまだ存在していない場合には、それが自動的に作成されます。

ライブラリー／ターゲット・テーブル名  
ターゲット・テーブルの修飾名。

上

---

## ソース・テーブル (SRCTBL)

コピー元にしたソース・テーブルを識別します。これは必須パラメーターです。

ソース・テーブルは、物理的にシステム上に存在している必要はありませんが、ユーザーがSRCSVRキーワードによって識別されたそのシステム上で登録したテーブルを指します。

ライブラリー／ソース・テーブル名  
コピーするソース・テーブルの修飾名。

上

---

## 制御サーバー (CTLSVR)

適用制御テーブルが存在しているリレーショナル・データベース名。これは、制御サーバーのリレーショナル・データベース名です。

### **\*LOCAL**

適用制御テーブルは、ローカル・リレーショナル・データベースにあります。

### **RDB名**

適用制御テーブルが常駐しているリレーショナル・データベース名。RDBディレクトリー項目処理

(WRKRDBDIRE)コマンドをデータ・サーバー上で使用して、この名前を検索することができます。適用制御テーブルが、ADDDPRSUBコマンドの実行されているシステム上にある場合には、RDB名はそれと関連した\*LOCALのリモート・ロケーションを持つリレーショナル・データベース名です。

上

---

## ソース・サーバー (SRCSVR)

ソース・テーブルが登録されるリレーショナル・データベース名。ソース・テーブルは、そのシステム上に物理的に存在することも、存在しないこともあります。これは、ソース・サーバーのリレーショナル・データベース名です。

### **\*LOCAL**

ソース・テーブルの登録は、ローカル・リレーショナル・データベースにあります。

### **RDB名**

ソース・テーブルが登録されるリレーショナル・データベース名。RDBディレクトリー項目処理(WRKRDBDIRE)コマンドをデータ・サーバー上で使用して、この名前を検索することができます。ソース・サーバーとターゲット・サーバーが同じである場合には、RDB名はそれと関連した\*LOCALのリモート・ロケーションを持つリレーショナル・データベース名です。それ以外の場合には、RDB名は、ソース・サーバー上にそれと関連した\*LOCALのリモート・ロケーションを持つリレーショナル・データベース名です。

上

---

## ターゲット・タイプ (TGTTYPE)

ターゲット・テーブルの再生成に使用されるコピーのタイプを示します。これらは、ターゲット・テーブルの内容を記述するDATAPROPAGATORの用語です。ターゲット・テーブルがこれらのタイプの1つとして作成された後で、DPR登録追加(ADDDPRREG)コマンドのSRCTBLパラメーターにこのパラメーター値を使用して、このターゲット・テーブルをソース・テーブルとして登録することができます。

### **\*USERCOPY**

ターゲット・テーブルはユーザー・コピーです。ユーザー・コピーは、所定の時刻にその内容がソース・テーブルの全部または一部と一致するターゲット・テーブルです。ユーザー・コピーは特定時点のコピーと同様に処理されますが、それは特定時点のターゲット・テーブルに存在するDataPropagatorのオーバーヘッド・カラムは含んでいません。

KEYCOLパラメーターに\*RRNの値が指定されている場合には、この値は無効です。

### **\*POINTINTIME**

ターゲット・テーブルは特定時点のコピーです。特定時点のコピーは、所定の時刻にその内容がソース・テーブルの全部または一部と一致するターゲット・テーブルです。

ターゲット・テーブルが特定時点のコピーである場合には、また、KEYCOLパラメーターに固有のキー・フィールドを指定し、UNIQUEパラメーターには\*YESの値を指定しなければなりません。

### **\*REPLICA**

ターゲット・テーブルは複製です。ターゲット・テーブルには、ソース・テーブルからの1つのカラムのみが含まれます。このテーブルには、DATAPROPAGATORのカラム識別コードであるIBMSNAPまたはIBMQSQで始まるカラムは含まれません。

このターゲット・テーブルは、どこかに更新がある場合にのみ使用されます。ターゲット・テーブルはソース・テーブルから変更を受け取り、ターゲット・テーブルに対する変更は、ソース・テーブルに伝搬し戻されます。

このテーブルはソース・テーブルとして自動的に登録されます。また、ターゲット・テーブルからのデータをソース・テーブルに伝搬し戻せるように、サブスクリプション制御テーブルには追加の行が入れられます。

**\*CCD** ターゲット・テーブルは一貫性のあるコピーです。一貫性のあるコピーは、ソース・テーブルのランザクション整合状態を反映するターゲット・テーブルです。

**\*BASEAGR**

ターゲット・テーブルは基本集合です。基本集合は、ソース・テーブルまたは特定時点テーブルから集合されたデータを含むターゲット・テーブルです。

**\*CHANGEAGR**

ターゲット・テーブルは変更集合です。変更集合は、ソース・テーブルについて記録された変更に基づくデータ集合を含むターゲット・テーブルです。

上

---

## キー・カラム (KEYCOL)

ターゲット・テーブルのキーを記述するカラムのリストを定義します。カラム名は非修飾でなければなりません。特定時点、複製、およびユーザー・コピーのターゲット・テーブル(TGTTYPEパラメーターで指定されます) の場合には、固有のキー・フィールドを指定しなければなりません。

**\*SRCTBL**

ターゲット・テーブルのキー・カラムはソース・テーブルのキー・カラムと同じです。ソース・テーブルがキー付きである場合には、ADDDPRSUBMにはそのソース・テーブルに指定されたキーが使用されます。次のキー・カラムが使用されます。

- 物理ファイル作成(CRTPF)コマンドを使用したテーブルの作成時に、DDSを通じて定義されたキー・カラム
- CREATE TABLEおよびALTER TABLE SQLステートメントを使用して定義された1次および固有キー
- CREATE INDEX SQLステートメントを使用して定義された固有キー

カラムがキーとして異なる順序で複数回使用される場合には、ターゲット・テーブルのキーは昇順で定義されます。

**\*RRN** ターゲット・テーブルのキー・カラムはIBMQSQ\_RRNカラムです。ターゲット・テーブルはIBMQSQ\_RRNカラムによって作成され、このカラムがキーとして使用されます。適用構成要素の実行時に、ソース・テーブルがユーザー・テーブルであり、ターゲット・テーブルが特定時点または一貫性のあるコピーであった場合に、ターゲット・テーブルのIBMQSQ\_RRNカラムは、ソース・テーブル中の関連したレコードの相対レコード番号によって更新されます。それ以外の場合には、ターゲット・テーブルのIBMQSQ\_RRNカラムはソース・テーブルのIBMQSQ\_RRNカラムの値によって更新されます。

**\*NONE**

ターゲット・テーブルに1次キーは含まれません。ターゲット・テーブルが特定時点、複製、またはユーザー・コピー・サブスクリプションである場合には、この値は使用できません。

## カラム名

120個までのカラム名のリスト。

上

---

## ターゲット・テーブルの作成 (CRTTGTTBL)

ターゲット・テーブルを作成するかどうかを指定します。

**\*YES** ターゲット・テーブルが存在していない場合にそれを作成します。テーブルがすでに存在している場合には、それがターゲット・テーブルとして使用され、CHKFMTパラメーターの値が\*YESである場合には、その様式が検査されます。ターゲット・テーブルをビューとすることができます。ターゲット・テーブルがビューである場合には、索引は作成されません。ターゲット・テーブルが存在していて、KEYCOLおよびUNIQUEパラメーターによって指定された値と一致する索引がすでに存在している場合には、追加の索引は作成されません。ターゲット・テーブルが存在していて、索引が作成された場合に、そのターゲット・テーブルにこれらの索引に違反するレコードが含まれていると、コマンドは失敗することになります。

**\*NO** ターゲット・テーブルを作成しません。テーブルが存在する必要はありません。それが存在しない場合には、適用構成要素を開始する前に、正しい様式のテーブルを作成する必要があります。

テーブルが存在していて、CHKFMT(\*YES)が指定された場合には、ADDDPRSUBコマンドで、既存のテーブルの様式がサブスクリプションと一致するかどうかを確認されます。CHKFMT(\*NO)を指定した場合には、既存のテーブルの様式がサブスクリプションと一致するかどうかを確認する必要があります。

上

---

## ターゲット・テーブル様式の検査 (CHKFMT)

このサブスクリプションについて定義されたカラムがターゲット・テーブル中のカラムと一致するかどうかを確認するための検査を実行する必要があるかどうかを指定します。このパラメーターは、CRTTGTTBLパラメーターの値が\*YESである場合、あるいはCRTTGTTBLパラメーターの値が\*NOであって、ターゲット・テーブルが存在していない場合には、無視されます。

**\*YES** このサブスクリプションについて定義されたカラムがターゲット・テーブル中のカラムと一致するかどうかを確認するための検査が実行されます。ミスマッチが検出された場合には、コマンドは失敗します。

**\*NO** サブスクリプションと既存のターゲット・テーブルの間の差異は無視されます。ターゲット・テーブルにサブスクリプションとの互換性があることを確認しなければなりません。

上

---

## ソース・カラム (COLUMN)

ターゲット・テーブルに組み込むカラムのリストを定義します。カラム名は非修飾でなければなりません。登録済みソース・テーブルのCAPCOLパラメーターに指定されたカラム名のリストからカラム名を選択してください。

登録済みソース・テーブルのIMAGEパラメーターに\***BOTH**が指定されていた場合には、事前カラム名を指定することができます。事前イメージ・カラム名は元のカラム名と同じですが、それらには、ソース・テーブルでの登録を作成したADDDPRREGコマンドのPREFIXパラメーターに指定された文字による接頭部が付けられます。

**\*ALL** 登録済みソース・テーブルに対するDPR登録追加(ADDDPRREG)コマンドのCAPCOLパラメーターに指定されたすべてのカラムが組み込まれます。

**\*NONE**

カラムは組み込まれません。CALCCOLパラメーターの式に合計関数（たとえば、SUMまたはAVG）が含まれている場合には、この値が必要です。この理由のために、基本集合および変更集合サブスクリプションでは、このパラメーターの\***NONE**であることが必要な場合がよくあります。

**カラム名**

300個までのカラム名のリスト。

上

---

## 固有キー (UNIQUE)

ターゲット・テーブルに、KEYCOLパラメーターで指定された固有キーが含まれるかどうかを指定します。

**\*YES** ターゲット・テーブルでは、キー当たり1つの最終的な変更がサポートされます。すなわち、キーに対していくつ変更が行われても、ターゲット・テーブルにはそのキーについて1行のみが存在します。特定時点、複製、ユーザー・コピー、および圧縮された一貫性のあるテーブルには固有キーが必要です。

**\*NO** ターゲット・テーブルはキー当たり複数の変更をサポートします。変更がターゲット・テーブルに追加されます。圧縮されない一貫性のあるテーブルには、この値を指定しなければなりません。

上

---

## ターゲット・カラム (TGTCOL)

ターゲット・テーブル中で更新されるカラムの新しい名前を定義します。これらの名前は、ソース・テーブル中のカラム名を指定変更します。カラム名は非修飾でなければなりません。このパラメーターを使用して、より意味のある名前をターゲット・テーブルのカラムに与えることができます。

COLUMNパラメーターに\***NONE**の値を指定した場合には、このパラメーターは使用しないようにしてください。

**\*COLUMN**

ターゲット・カラムは、COLUMNパラメーターで指定されたものと同じです。

**カラム名**

300個までのカラム名のリスト。

**新しい名前**

300個までの新しいカラム名のリスト。

上

---

## 計算カラム (CALCCOL)

ターゲット・テーブル中のユーザー定義または計算カラムのリストを定義します。カラム名は非修飾でなければなりません。SQL式を指定することができます。カラム名はそれぞれの式に必要です。このパラメータでSQLカラム関数を使用したい場合には、COLUMNパラメータに\*NONEの値を指定しなければなりません。

### \*NONE

計算カラムは指定されません。

### カラム名

100個までのカラム名のリスト。

### 式

100個までのSQLカラム式のリスト。

上

---

## 行選択項目式 (ROWSLT)

ターゲット・テーブルの中で維持される行を選択するためにSQL WHERE文節に入れる述部を定義します。

注: このパラメータのWHERE文節には、SQLBEFOREおよびSQLAFTERパラメータに指定されたどのWHERE文節とも関連性はありません。

\*ALL ソース・テーブルのすべての行が選択されます。

### WHERE文節

SQL WHERE文節。このパラメータではWHEREキーワードが暗黙に指定されるので、それを指定しないようにしてください。この文節を実行中のデータ・サーバー・プラットフォーム上で、WHERE文節が有効であることを確認しなければなりません。

システム命名規則ではなくSQL命名規則を使用する必要があります。SQLテーブル参照は、システム命名規則( LIBRARY/TABLE )ではなく様式 LIBRARY.TABLE でなければなりません。

上

---

## ターゲット・キーの変更 (TGTKYCHG)

ターゲット・キーの変更を指定します。これは、ターゲット・テーブルの1次キーのためのカラムがソース・テーブルで変更された場合の、適用プログラムによる更新の処理方法を示すフラグです。

\*NO ソース・テーブルに対する更新はターゲット・テーブルに対する更新として処理されます。

\*YES 適用プログラムは、1次キー・カラムの事前イメージに基づいてターゲット・テーブルを更新します。ソース・テーブルが登録済みであった場合には、USEDELINSパラメータも\*NOに設定しなければなりません。また、ソース・テーブルはIMAGE(\*BOTH)を使用して登録されている必要があります。

上



---

## DPR登録の追加 (ADDREG)

ターゲット・テーブルをDATAPROPAGATORのためのソース・テーブルとして登録するかどうかを指定します。このパラメーターは、TGTTYPEが\*REPLICAである場合にはターゲット・テーブルがソース・テーブルとして自動的に登録されるので、無視されます。

**\*NO** ターゲット・テーブルは登録されません。

TGTTYPEが\*REPLICAである場合には、この値は無視されて、ターゲットがソース・テーブルとして登録されます。

ターゲット・テーブルがすでに登録済みである場合には、ターゲット・テーブルとソース・テーブルが同じテーブルでないことを確認するための検査は行われません。

**\*YES** ターゲット・テーブルはソース・テーブルとして登録されます。ターゲット・テーブルがすでに登録済みである場合には、コマンドは失敗します。

テーブルが存在せず、CRTTGTTBLパラメーターの値が\*NOである場合には、ターゲット・テーブルは登録されません。さらに、TGTTYPEパラメーターの値が\*USERCOPYである場合も、ターゲット・テーブルは登録されません。

ターゲット・テーブルが存在し、\*USERCOPY以外のターゲット・タイプであって、すでに登録済みであった場合に、コマンドは、登録のソース・タイプがサブスクリプションのターゲット・タイプと同じであることを確認するための検査を行います。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN1038

カラム名または式が指定されていません。

#### ASN2051

登録拡張テーブルが認可されていません。

#### ASN2501

テーブルの登録を認可されていません。

#### ASN303A

行選択項目の式が正しくありません。

#### ASN3036

カラムが見つかりません。

#### ASN3037

カラムはすでに存在しています。

**ASN3039**

カラムはすでに存在しています。

**ASN3041**

カラム関数を使用することはできません。

**ASN3042**

カラムの名前を変更することはできません。

**ASN3047**

モジュールで内部エラー。

**ASN3068**

ターゲット・タイプにはキー・カラムが必要です。

**ASN3072**

相対レコード番号はキャプチャーされていません。

**ASN3073**

レコード番号カラムIBMQSQ\_RRNが使用できません。

**ASN3074**

ターゲット・タイプでKEYCOL(IBMQSQ\_RRN)は正しくありません。

**ASN3078**

ターゲット・ファイルがサブスクリプションと一致していません。

**ASN3079**

ターゲット・ファイルに正しいカラムが含まれていません。

**ASN3115**

リレーショナル・データベースがi5/OS V4R2以上になっていません。

**ASN3210**

TGTTYPEが\*POINTINTIMEである時には、UNIQUEは\*YESでなければなりません。

**ASN3218**

このターゲット・タイプの場合には、KEYCOLパラメーターに値\*RRNは使用できません。

**ASN3220**

このターゲット・タイプの場合には、KEYCOLパラメーターに値\*NONEは使用できません。

**ASN3231**

TGTTYPEが\*REPLICAである時には、UNIQUEは\*YESでなければなりません。

**ASN3232**

TGTTYPEが\*USERCOPYである時には、UNIQUEは\*YESでなければなりません。

**ASN3233**

TGTTYPEが\*REPLICAである時には、COLUMNは\*ALLでなければなりません。

**ASN3235**

TGTTYPEが\*REPLICAである時には、CALCCOLは\*NONEでなければなりません。

**ASN3241**

ターゲット・テーブルが間違ったタイプとして登録されています。

**ASN3253**

テーブルの登録が見つかりません。

- ASN3254**  
テーブルの登録はすでに存在しています。
- ASN3256**  
サブスクリプション・セット・テーブルは認可されていません。
- ASN3257**  
サブスクリプション・メンバー・テーブルは認可されていません。
- ASN3258**  
サブスクリプション・カラム・テーブルは認可されていません。
- ASN3262**  
ソースおよびターゲットが無効です。
- ASN3263**  
プルーニング制御テーブルは認可されていません。
- ASN3266**  
適用修飾子セット名のサブスクリプション・セットが存在していません。
- ASN3267**  
セットのすべてのメンバーが同じジャーナルからのものではありません。
- ASN3268**  
適用修飾子セット名のサブスクリプション・メンバーが作成されました。
- ASN3269**  
メンバーはすでに存在しています。
- ASN3277**  
のソース・テーブルにはカラムが含まれています。
- ASN3278**  
TGTTYPEが\*REPLICAである時には、TGTCOLは\*COLUMNでなければなりません。
- ASN3283**  
TGTTYPEが\*REPLICAである時にはソース・テーブルをビューにすることはできません。
- ASN3290**  
コミット・カウントがゼロより小さくなっています。
- ASN3291**  
登録拡張子テーブルが見つかりません。
- ASN3292**  
登録テーブルが見つかりませんでした。
- ASN3293**  
プルーニング制御テーブルが見つかりませんでした。
- ASN4512**  
サブスクリプション設定テーブルが見つかりませんでした。
- ASN4518**  
サブスクリプション・メンバー・テーブルが見つかりませんでした。
- ASN4520**  
サブスクリプション・カラム・テーブルが見つかりませんでした。



---

## DPRジャーナル処理の分析 (ANZDPRJRN)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

DPRジャーナル分析(ANZDPRJRN)コマンドは、DATAPROPAGATORキャプチャー構成要素で不要になったジャーナル・レシーバーを判別するのに役立つだけでなく、不要なジャーナル・レシーバーをオプションで削除します。

ソース・テーブルの次のタイプの場合にジャーナル・レシーバーが分析されます。

- DATAPROPAGATORのもとで登録されたソース・テーブル、および
- 異なる再生成を開始したソース・テーブル (すなわち変更データ・テーブルに行が存在するソース・テーブル)

基本ファイル という用語には、SQLテーブル、SQLビュー、ローカルとリモートの物理ファイル、および複数メンバー物理ファイルの物理ファイル・メンバーに基づいて作成された論理ファイルが含まれます。

キャプチャー処理が実行中であるかどうかに関係なくこのコマンドを実行することができます。しかし、キャプチャー処理が実行中でない時に実行するようにお奨めします。

削除に適格な各レシーバーについて、このコマンドで通知メッセージASN602E (自動削除を選択していない場合) あるいは通知メッセージASN602D (自動削除を選択している場合) が出されます。

このコマンドは、ライブラリーQTEMP中に4つのメンバーを持ったQZSNSPLFという名前のファイルを作成します。

注: ANZDPRJRNコマンドは、キャプチャー構成要素に対するその有用性に基づいてのみジャーナル・レシーバーが削除可能であるかどうかを決定します。一部のジャーナル・レシーバーは、DATAPROPAGATORの外部で他の目的に使用されていることがあります。登録されているファイルが使用するジャーナルについての完全な知識を持っている以外は、適格なレシーバーを自動的に削除することを指定する時には注意が必要です。

- 注: 項目が画面自身またはヘルプ情報にアスタリスクを付けて表示されていない場合には、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

---

## ANZDPRJRNのエラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN2023

のファイルでエラーが起きました。

#### ASN6021

ライブラリーの基本テーブルのメンバー情報の取得の試みがメッセージで正常に実行されませんでした。

#### ASN6022

PCBからジャーナル・リストの読み取りの障害。

**ASN6024**

どの登録レコードも読み取ることができませんでした。

**ASN6025**

ライブラリーのテーブルをオープンできませんでした。

**ASN6026**

ライブラリーの基本テーブルのファイル情報の取得の試みがメッセージで正常に実行されませんでした。

**ASN6027**

伝搬用のデータのキャプチャーに使用されるジャーナルの数が限界を超えています。

**ASN6028**

ライブラリーのジャーナル用のライブラリーのジャーナル・レシーバーを削除することができません。

**ASN6029**

ライブラリーQTEMPのファイルQZSNSPLFのメンバーをオープンすることができません。

**ASN602A**

ライブラリーのジャーナルのレシーバーの数が限界を超えています。

**ASN602B**

メッセージCPA7025への応答の取り消しのために、ライブラリーのジャーナル・レシーバーを削除することができません。

**ASN602C**

ジャーナル・レシーバーの開始順序番号または終了順序番号を確立することができませんでした。

**ASN602D**

ライブラリーのジャーナル用のライブラリーのジャーナル・レシーバーが削除されています。

**ASN602E**

ライブラリーのジャーナル用のライブラリーのジャーナル・レシーバーは削除に適格ではありません。

**ASN602F**

ライブラリーのジャーナルに対して削除に適切なジャーナル・レシーバーが見つかりませんでした。

**ASN604F**

ライブラリーのジャーナルの処理中にWRKJRNAコマンドがエスケープ・メッセージで正常に実行されませんでした。

トップ

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLTJRNCV	ジャーナル・レシーバー削除	*YES, *NO	オプション

トップ

---

## ジャーナル・レシーバー削除 (DLTJRNRV)

キャプチャー構成要素に不要になったレシーバーをコマンドで削除させたいかどうかを指定します。削除に  
適格な各レシーバーにメッセージが出され、さらにジョブ・ログ中の情報が表示されます。

**\*NO** 適格なレシーバーが自動的に削除されることはありません。

このオプションを最初に使用してコマンドを実行し、削除されるジャーナル・レシーバーを確認す  
ることができます。

**\*YES** 適格なレシーバーが自動的に削除されます。

注: 登録されているファイルが使用するジャーナルについての完全な知識を持っている以外は、適  
格なレシーバーを自動的に削除することを指定する時には注意が必要です。

トップ

---

## 例

なし

トップ

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN2023

のファイルでエラーが起きました。

#### ASN6021

ライブラリーの基本テーブルのメンバー情報の取得の試みがメッセージで正常に実行されません  
でした。

#### ASN6022

PCBからジャーナル・リストの読み取りの障害。

#### ASN6024

どの登録レコードも読み取ることができませんでした。

#### ASN6025

ライブラリーのテーブルをオープンできませんでした。

#### ASN6026

ライブラリーの基本テーブルのファイル情報の取得の試みがメッセージで正常に実行されません  
でした。

#### ASN6027

伝搬用のデータのキャプチャーに使用されるジャーナルの数が限界を超えています。

#### ASN6028

ライブラリーのジャーナル用のライブラリーのジャーナル・レシーバーを削除することができませ  
ん。

#### ASN6029

ライブラリーQTEMPのファイルQZSNSPLFのメンバーをオープンすることができません。

**ASN602A**

ライブラリーのジャーナルのレシーバーの数が限界を超えています。

**ASN602B**

メッセージCPA7025への応答の取り消しのために、ライブラリーのジャーナル・レシーバーを削除することができません。

**ASN602C**

ジャーナル・レシーバーの開始順序番号または終了順序番号を確立することができませんでした。

**ASN602D**

ライブラリーのジャーナル用のライブラリーのジャーナル・レシーバーが削除されています。

**ASN602E**

ライブラリーのジャーナル用のライブラリーのジャーナル・レシーバーは削除に適格ではありません。

**ASN602F**

ライブラリーのジャーナルに対して削除に適切なジャーナル・レシーバーが見つかりませんでした。

**ASN604F**

ライブラリーのジャーナルの処理中にWRKJRNAコマンドがエスケープ・メッセージで正常に実行されませんでした。

[トップ](#)



---

## DPRテーブルの作成 (CRTDPRTBL)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

DATAPROPAGATORに必要な制御テーブルを作成するには、DPRテーブル作成(CRTDPRTBL)コマンドを使用します。このコマンドは、必要なジャーナルとともに登録およびサブスクリプション用にすべての制御テーブルを作成します。

このコマンドを実行するには、\*ALLOBJ権限が必要です。

- ・注：項目が画面自身またはヘルプ情報にアスタリスクを付けて表示されていない場合には、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

---

## CRTDPRTBLのエラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN2002

キャプチャー・パラメーター・テーブルが見つかりませんでした。

#### ASN1015

作業単位テーブルが見つかりません。

#### ASN4501

登録テーブルが見つからなかったか、オープンに失敗しました。

#### ASN4502

登録テーブル索引が見つからなかったか、オープンに失敗しました。

#### ASN4503

プルーニング制御テーブルが見つからなかったか、オープンに失敗しました。

#### ASN4504

プルーニング制御索引が見つからなかったか、オープンに失敗しました。

#### ASN4505

キャプチャー・トレース・テーブルが見つかりません。

#### ASN4506

再始動テーブルが見つからなかったか、オープンに失敗しました。

#### ASN4510

登録拡張索引が見つからなかったか、オープンに失敗しました。

#### ASN4512

サブスクリプション設定テーブルが見つかりませんでした。

#### ASN4513

サブスクリプション設定索引が見つかりませんでした。

#### ASN4514

サブスクリプション・ステートメント・テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4515**

サブスクリプション・ステートメント索引が見つかりませんでした。

**ASN4516**

サブスクリプション・イベント・テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4517**

サブスクリプション・イベント索引が見つかりませんでした。

**ASN4518**

サブスクリプション・メンバー・テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4519**

サブスクリプション・メンバー索引が見つかりませんでした。

**ASN4520**

サブスクリプション・カラム・テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4521**

サブスクリプション・カラム索引が見つかりませんでした。

**ASN4522**

適用証跡表が見つかりませんでした。

**ASN424**

適用ジョブ・テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4525**

適用修飾子相互参照テーブルが見つからなかったか、オープンに失敗しました。

**CPF3C20**

プログラムでエラーが見つかった。

[トップ](#)

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CAPCTLLIB	キャプチャー制御ライブラリー	名前, <u>ASN</u>	オプション

[トップ](#)

---

## キャプチャー制御ライブラリー (CAPCTLLIB)

作成するキャプチャー制御ライブラリーの名前を指定します。

**ASN** DATAPROPAGATOR ISERIES用プロダクトによって提供される省略時のキャプチャー制御ライブラリーを指定します。

### キャプチャー・インスタンス名

作成するキャプチャー制御ライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

---

## 例

なし

トップ

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN2002

キャプチャー・パラメーター・テーブルが見つかりませんでした。

#### ASN1015

作業単位テーブルが見つかりません。

#### ASN4501

登録テーブルが見つからなかったか、オープンに失敗しました。

#### ASN4502

登録テーブル索引が見つからなかったか、オープンに失敗しました。

#### ASN4503

プルーニング制御テーブルが見つからなかったか、オープンに失敗しました。

#### ASN4504

プルーニング制御索引が見つからなかったか、オープンに失敗しました。

#### ASN4505

キャプチャー・トレース・テーブルが見つかりません。

#### ASN4506

再始動テーブルが見つからなかったか、オープンに失敗しました。

#### ASN4510

登録拡張索引が見つからなかったか、オープンに失敗しました。

#### ASN4512

サブスクリプション設定テーブルが見つかりませんでした。

#### ASN4513

サブスクリプション設定索引が見つかりませんでした。

#### ASN4514

サブスクリプション・ステートメント・テーブルが見つけられませんでした。

#### ASN4515

サブスクリプション・ステートメント索引が見つかりませんでした。

#### ASN4516

サブスクリプション・イベント・テーブルが見つかりませんでした。

#### ASN4517

サブスクリプション・イベント索引が見つかりませんでした。

#### ASN4518

サブスクリプション・メンバー・テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4519**

サブスクリプション・メンバー索引が見つかりませんでした。

**ASN4520**

サブスクリプション・カラム・テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4521**

サブスクリプション・カラム索引が見つかりませんでした。

**ASN4522**

適用証跡表が見つかりませんでした。

**ASN424**

適用ジョブ・テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4525**

適用修飾子相互参照テーブルが見つからなかったか、オープンに失敗しました。

**CPF3C20**

プログラムでエラーが見つかった。

[トップ](#)

---

## DPR適用の終了 (ENDDPRAPY)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

DPR適用終了(ENDDPRAPY)コマンドは、ローカル・システムに対するDATAPROPAGATOR FOR ISERIES適用処理のインスタンスを終了します。適用処理は、計画されたシステムの遮断時の前に終了する必要があります。また、システムのピーク使用期間中に適用処理を終了することもできます。

- 注: 項目が画面自身またはヘルプ情報にアスタリスクを付けて表示されていない場合には、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

---

## ENDDPRAPYのエラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN1502

ローカル・リレーショナル・データベース名を見つけることができません。

#### ASN1507

ライブラリーASN中の適用ジョブ・テーブルIBMSNAP\_APPLY\_JOBが使用可能ではありません。

#### ASN1515

応答修飾子'"'の適用処理が活動状態ではありません。

#### ASN4524

適用ジョブ・テーブルが見つかりませんでした。

#### ASN1512

ENDDPRAPYコマンドが正常に実行されませんでした。

#### ASN1513

適用ジョブ・テーブルに適用ジョブ・レコードが見つかりませんでした。

トップ

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USER	ユーザー	名前, *CURRENT	オプション, 位置 1
OPTION	終了方法	*CNTRLD, *IMMED	オプション, 位置 2
APYQUAL	修飾子の適用	文字値, *USER	オプション, 位置 3
CTLSVR	制御サーバー	文字値, *LOCAL	オプション, 位置 4

トップ

---

## ユーザー (USER)

これは、適用のインスタンスと関連した適用修飾子です。このパラメーターは、APYQUALパラメーターの値が\*USERである場合にのみ使用されます。

### \*CURRENT

現行ジョブと関連したユーザーの適用処理が終了されます。

### ユーザー名

指定したユーザーの適用処理が終了されます。

[トップ](#)

---

## 終了方法 (OPTION)

適用処理の終了方法を指定します。

### \*CNTRLD

適用処理は、そのすべてのタスクを完了した後で正常に終了します。適用処理がサブスクリプションを完了する場合にはかなりの時間がかかることがあります。

### \*IMMED

適用処理は、ENDJOB OPTION(\*IMMED)コマンドが指定されたそのすべてのタスクの処理を完了し、正常に終了します。タスクは、終結処置なしにただちに終了します。適用処理が静止している時には、このオプションを安全に使用することができます。このオプションは、制御された終了の試みが正常に行われなかった後にのみ使用してください。

[トップ](#)

---

## 修飾子の適用 (APYQUAL)

適用のインスタンスによって使用される適用修飾子を指定します。この適用修飾子によって一緒グループ化されているすべてのサブスクリプションは、この適用インスタンスによって実行されています。

### \*USER

USERパラメーターに指定するユーザー名は、適用修飾子です。

### 適用修飾子

この適用インスタンスによって実行されるサブスクリプションをグループ化するために使用される名前を指定します。適用修飾子名には最大18文字を指定することができます。この名前は、RDB名と同じ命名規則に従っています。実行されるサブスクリプションは、IBMSNAP\_SUBS\_SETテーブル中でAPPLY\_QUALカラムにこの値を持つレコードによって識別されます。

[トップ](#)

---

## 制御サーバー (CTLSVR)

サブスクリプション制御テーブルがある制御サーバーのデータベース名を指定します。

## **\*LOCAL**

サブスクリプション制御テーブルは、ローカル・リレーショナル・データベースにあります。

## **RDB名**

リレーショナル・データベース名。このパラメーターでF4（プロンプト）キーを押してRDBディレクトリー中のRDBのリストを表示し、その中から選択することができます。RDBディレクトリー項目処理(WRKRDBDIRE)コマンドを使用して、この名前を検索することもできます。

トップ

---

## **例**

なし

トップ

---

## **エラー・メッセージ**

### **\*ESCAPEメッセージ**

#### **ASN1502**

ローカル・リレーショナル・データベース名を見つけることができません。

#### **ASN1507**

ライブラリーASN中の適用ジョブ・テーブルIBMSNAP\_APPLY\_JOBが使用可能ではありません。

#### **ASN1515**

応答修飾子""の適用処理が活動状態ではありません。

#### **ASN4524**

適用ジョブ・テーブルが見つかりませんでした。

#### **ASN1512**

ENDDPRAPYコマンドが正常に実行されませんでした。

#### **ASN1513**

適用ジョブ・テーブルに適用ジョブ・レコードが見つかりませんでした。

トップ





---

## DPRキャプチャーの終了 (ENDDPRCAP)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

DPRキャプチャー終了(ENDDPRCAP)コマンドは、登録済みソース・テーブル（ローカルとリモートの両方）に対するDATAPROPAGATOR FOR ISERIESキャプチャー処理を終了します。キャプチャー処理が活動状態になっていないか、あるいは同じ終了タイプ(\*IMMED, \*CNTRLD)に別の要求が出された場合には、ENDDPRCAPコマンドは正常に実行されません。

このコマンドは、システムを遮断する前に、キャプチャー処理を終了するために実行しなければなりません。また、システムのピーク使用期間中に、システム上で実行中の他のプログラムのパフォーマンスを高めるために終了することもできます。

注: \*CNTRLDオプションが指定されている場合には、ENDDPRCAPコマンドによるキャプチャー処理の終了に長時間を要する場合があります。これは、キャプチャー処理が終了する前に、その従属処理をすべて完了するためです。

注: ENDJOBコマンドを使用した場合には、一時オブジェクトがQDP4ライブラリー中に残されることがあります。これらのオブジェクトは、タイプが\*DTAQの、QDPRNNNNNNという名前です。ここで、NNNNNNはそれらを使用していたジョブのジョブ番号です。これらのオブジェクトは、それを使用していたジョブ（オブジェクト名のジョブ番号によって識別されます）が活動状態でない時に削除することができます。

- ・注: 項目が画面自身またはヘルプ情報にアスタリスクを付けて表示されていない場合には、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

---

## ENDDPRCAPのエラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN2563

キャプチャー・インスタンスが活動状態ではありません。

#### ASN2564

キャプチャー・インスタンスはすでにオプションによって終了中です。

#### ASN2565

キャプチャー・インスタンスはオプションによって終了中です。

トップ

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	終了方法	*CNTRLD, *IMMED	オプション、定位置 1

キーワード	記述	選択項目	注
CAPCTLLIB	キャプチャー制御ライブラリー	名前, <u>ASN</u>	オプションル, 定位置 2
RGZCTLTLBL	制御テーブルの再編成	<u>*NO</u> , *YES	オプションル, 定位置 3

トップ

---

## 終了方法 (OPTION)

キャプチャー処理の終了方法を指定します。

### \*CNTRLD

キャプチャー処理は、そのすべてのタスクを完了してから、正常に終了します。

### \*IMMED

キャプチャー処理は、ENDJOB OPTION(\*IMMED)コマンドが指定されたそのすべてのタスクを完了し、正常に終了します。

トップ

---

## キャプチャー制御ライブラリー (CAPCTLLIB)

終了するキャプチャー・インスタンスの名前を指定します。

ASN DATAPROPAGATOR ISERIES用プロダクトによって提供され、最初のキャプチャー・インスタンスとして定義されている省略時のキャプチャー・インスタンスを指定します。

### キャプチャー・インスタンス名

キャプチャー制御テーブルが入っているライブラリーを指定します。

トップ

---

## 制御テーブルの再編成 (REZCTLTLBL)

キャプチャーの終了時に、CDおよびUOWテーブルを含む制御テーブルに物理ファイル・メンバー再編成(RGZPFM)を実行するかどうかを指定します。プルーニングの後には、テーブルに対してRGZPFMが実行されなければ、ディスク・スペースは回復されません。これが実行されるとすれば、ENDDPRCAPがCDテーブルに対する排他ロックを獲得した時です。

### \*NO (省略時の値)

RGZPFMは実行されないことを指定します。

\*YES RGZPFMが実行されることを指定します。OPTION(\*CNTRLD)の場合にのみ可能です。

トップ

---

## 例

なし

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN2563

キャプチャー・インスタンスが活動状態ではありません。

#### ASN2564

キャプチャー・インスタンスはすでにオプションによって終了中です。

#### ASN2565

キャプチャー・インスタンスはオプションによって終了中です。



---

## DPR権限の認可 (GRTDPRAUT)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

DPR権限認可(GRTDPRAUT)コマンドは、ユーザーが登録者およびサブスクライバーとなることができるように、ユーザーのリストにDATAPROPAGATOR制御テーブルに対する権限を認可します。登録者はファイルをコピー可能にすることができ、サブスクライバーは登録済み基本ファイルからサブスクリプションを作成し拡張することができます。

キャプチャーまたは適用処理の実行中、あるいはソース・テーブルを使用しているアプリケーションが活動状態の時には、GRTDPRAUTコマンドを実行することはできません。これは、使用中のファイルの権限を変更することができないためです。

認可された登録者によってさらに多くのテーブルがキャプチャー用に登録されるので、テーブルを登録した担当者は、それらのテーブルに対する権限が認可されるべきユーザーにはサブスクライバー権限を割り当てなければなりません。

コマンドに指定されたユーザーが存在していない場合、コマンドを実行中のユーザーに指定されたユーザー・プロファイルが認可されていない場合、DATAPROPAGATOR制御テーブルが存在していない場合、あるいはコマンドを実行中のユーザーがDATAPROPAGATOR制御テーブルに対する権限を認可する許可を得ていない場合には、コマンドはエラー・メッセージを出します。

GRTDPRAUTコマンドは、これら各種の権限要件を補うものです。たとえば、キャプチャーおよび適用を実行するユーザーの権限要件は、登録およびサブスクリプションを定義するユーザーの権限要件とは異なります。

GRTDPRAUTコマンドで権限を認可するには、\*ALLOBJ特殊権限が必要です。

- ・ 注：項目が画面自身またはヘルプ情報にアスタリスクを付けて表示されていない場合には、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

---

## GRTDPRAUTのエラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN3011

登録権限を認可することはできません。

#### ASN3013

サブスクリプション権限を認可することはできません。

#### ASN3095

登録権限が認可されました。認可されなかったオブジェクトがあります。

#### ASN3097

サブスクリプション権限が認可されました。認可されなかったオブジェクトがあります。

#### ASN301A

APYQUALパラメーターは使用できません。

#### ASN301B

権限の認可を許可されていません。

#### ASN301D

権限が認可されました。認可されなかったオブジェクトがあります。

#### ASN301E

ライブラリー中でタイプのが見つかりませんでした。

#### ASN301F

\*ALLOBJ特殊権限が必要です。

#### ASN302A

中のタイプのに対して権限を認可することはできません。

#### ASN302B

USERおよびAPYQUALパラメーターが正しくありません。

[トップ](#)

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CAPCTLLIB	キャプチャー制御ライブラリー	名前, <u>ASN</u>	オプション
USER	ユーザー	単一値: *PUBLIC その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
AUT	権限	*REGISTRAR, *SUBSCRIBER, *CAPTURE, *APPLY	必須, 定位置 2
APYQUAL	修飾子の適用	文字値, <u>*ALL</u> , *USER	オプション

[トップ](#)

---

## キャプチャー制御ライブラリー (CAPCTLLIB)

権限を認可するキャプチャー制御ライブラリーの名前を指定します。

ASN DATAPROPAGATOR ISERIES用プロダクトによって提供された省略時のキャプチャー・インスタンスを指定します。

### キャプチャー・インスタンス名

権限を認可するキャプチャー制御ライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

---

## ユーザー (USER)

登録担当者またはサブスクリイバーの権限が必要なユーザーを識別します。

### ユーザー名

50人以内の指定されたユーザーに、登録担当者またはサブスクリイバーとなるための適切な権限が認可されます。

## \*PUBLIC

特定権限を持っていないか、このファイルに関連した権限リストにないか、あるいはそのグループ・プロファイルが権限を持っていないすべてのユーザーに権限が認可されます。

[トップ](#)

---

## 権限 (AUT)

認可中のDATAPROPAGATOR権限のタイプを識別します。

### \*REGISTRAR

ユーザーには登録担当者権限が認可されます。

\*REGISTRAR権限は、複製ソースを定義、変更、および除去するために必要な権限をユーザーに与えます。GRTPRAUTコマンドでは、キャプチャー処理を実行するために必要な権限は認可されません。これは、\*CAPTUREキーワードを使用して行わなければなりません。

### \*SUBSCRIBER

ユーザーにはサブスクライバー権限が認可されます。

\*SUBSCRIBER権限は、複製ターゲットを定義、変更、および除去するために必要な権限をユーザーに与えます。GRTPRAUTコマンドでは、適用処理を実行するために必要な権限は認可されません。これは、\*APPLYキーワードを使用して行わなければなりません。

### \*CAPTURE

ユーザーは、キャプチャー権限を認可されます。

キャプチャー権限を持つユーザーは、キャプチャー処理を正常に実行するために必要なすべてのオブジェクトに対する十分な権限を持ちます。

### \*APPLY

ユーザーは、適用権限を認可されます。

適用権限を持つユーザーは、適用処理を実行するために必要なこのシステム上のすべてのオブジェクトに対する十分な権限を持ちます。このコマンドでは、適用処理でアクセスされる以外のデータベースにあるどのオブジェクトに対する権限も認可されません。

[トップ](#)

---

## 修飾子の適用 (APYQUAL)

使用される適用修飾子を識別します。このパラメーターは、AUT(\*APPLY)またはAUT(\*SUBSCRIBER)が指定された時にのみ指定されます。

**\*ALL** ユーザーは、適用処理を実行するか、あるいはすべての適用修飾子のサブスクリプションを定義および除去するための権限を認可されます。

- ユーザーは、このシステム上で定義された複製ソースに関連したすべてのCDテーブルおよびCCDテーブルに対する権限を認可されます。
- ユーザーは、このシステムにあるIBMSNAP\_SUBS\_MEMBRにリストされたすべての複製ターゲットに対する権限を認可されます。

### \*USER

USERパラメーターに指定されたユーザーは、ユーザー名と同じ適用修飾子を持つサブスクリプションに対する権限を認可されます。

## 適用修飾子

ユーザーは、適用処理を実行するか、この適用修飾子に関連した適用修飾子のサブスクリプションを定義および除去するための権限を認可されます。

- ユーザーは、APYQUALパラメーターで入力された値と一致する値をAPPLY\_QUAL カラムを持つIBMSNAP\_PRUNCNTL中のレコードに関連したすべての複製ソース、CDテーブル、およびCCDテーブルに対する権限を認可されます。
- ユーザーは、APYQUALパラメーターで入力された値と一致する値をAPPLY\_QUAL カラムを持つIBMSNAP\_SUBS\_MEMBRにリストされたこのシステム上のすべての複製ターゲットに対する権限を認可されます。

[トップ](#)

---

## 例

なし

[トップ](#)

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN3011

登録権限を認可することはできません。

#### ASN3013

サブスクリプション権限を認可することはできません。

#### ASN3095

登録権限が認可されました。認可されなかったオブジェクトがあります。

#### ASN3097

サブスクリプション権限が認可されました。認可されなかったオブジェクトがあります。

#### ASN301A

APYQUALパラメーターは使用できません。

#### ASN301B

権限の認可を許可されていません。

#### ASN301D

権限が認可されました。認可されなかったオブジェクトがあります。

#### ASN301E

ライブラリー中でタイプのが見つかりませんでした。

#### ASN301F

\*ALLOBJ特殊権限が必要です。

#### ASN302A

中のタイプのに対して権限を認可することはできません。

#### ASN302B

USERおよびAPYQUALパラメーターが正しくありません。



[トップ](#)



---

## DPRキャプチャーの初期設定 (INZDPRCAP)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

DPRキャプチャー初期設定(INZDPRCAP)コマンドは、指定されたキャプチャー制御ライブラリーの登録テーブルにある（ローカルとリモートの両方の）ファイルの更新済みリストを処理するようキャプチャー・インスタンスに指示することによって、DATAPROPAGATOR FOR ISERIESキャプチャー・インスタンスを初期設定します。キャプチャー・インスタンスは、このコマンドを実行する前に実行されていなければなりません。

初期設定機能は累積的です。JRNパラメーターに指定されたジャーナルにジャーナル処理中のファイルがキャプチャー処理で現在処理中のファイルに追加されます。

現在処理中のファイルが変更データ制御テーブルから除去されていた場合には、キャプチャーはそのファイルの処理を停止します。ファイルがすでにキャプチャー処理で処理中である場合には、そのファイルは再び追加されることはありません。

- 注：項目が画面自身またはヘルプ情報にアスタリスクを付けて表示されていない場合には、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

---

## INZDPRCAPのエラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN2551

キャプチャー・スキーマがユーザー空間で見つかりません。

#### ASN2553

ユーザー空間QZS8CTLBLKのロックを獲得できませんでした。

#### ASN2555

ASNのユーザー空間QZS8CTLBLKを変更しようとして失敗しました。

#### ASN2557

ユーザー空間ASN/QZS8CTLBLKが見つかりません。

#### ASN2563

キャプチャー・インスタンスが活動状態ではありません。

#### ASN2564

キャプチャー・インスタンスはすでにオプションによって終了中です。

#### ASN2565

キャプチャー・インスタンスはオプションによって終了中です。

トップ

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
<b>CAPCTLLIB</b>	キャプチャー制御ライブラリー	名前, <u>ASN</u>	オプション, 位置 1
<b>JRN</b>	ジャーナル	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 3 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション, 位置 2
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , <u>*CURLIB</u>	

トップ

---

## キャプチャー制御ライブラリー (CAPCTLLIB)

初期設定するキャプチャー・インスタンスの名前を指定します。

ASN DATAPROPAGATOR ISERIES用プロダクトによって提供され、最初のキャプチャー・インスタンスとして定義されている省略時のキャプチャー・インスタンスを指定します。

### キャプチャー・インスタンス名

キャプチャー制御テーブルが入っているライブラリーを指定します。

トップ

---

## ジャーナル (JRN)

キャプチャー・インスタンスに処理させたい最大50個のジャーナルのリストを指定します。キャプチャーは、指定のキャプチャー制御ライブラリーに登録済みの、指定された1つまたは複数のジャーナルに現在ジャーナル処理されているすべてのソース・テーブルの処理を開始します。

\*ALL キャプチャーは、指定のキャプチャー制御ライブラリーに登録済みのすべてのソース・テーブルと関連したすべてのジャーナルの処理を開始します。

### ライブラリー名/ジャーナル名

キャプチャー処理で処理したいジャーナルの修飾名を指定してください。

トップ

---

## 例

なし

トップ

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN2551

キャプチャー・スキーマがユーザー空間で見つかりません。

**ASN2553**

ユーザー空間QZS8CTLBLKのロックを獲得できませんでした。

**ASN2555**

ASNのユーザー空間QZS8CTLBLKを変更しようとして失敗しました。

**ASN2557**

ユーザー空間ASN/QZS8CTLBLKが見つかりません。

**ASN2563**

キャプチャー・インスタンスが活動状態ではありません。

**ASN2564**

キャプチャー・インスタンスはすでにオプションによって終了中です。

**ASN2565**

キャプチャー・インスタンスはオプションによって終了中です。

[トップ](#)



---

## DPR登録の除去 (RMVDPRREG)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

DPR登録除去(RMVDPRREG)コマンドは、IBMSNAP\_REGISTERテーブルから項目を除去します。

要求された項目がテーブル中に見つからない場合には、このコマンドがエラー・メッセージを出します。このコマンドは、また、除去されている登録に対するサブスクリプションが存在していると判断できた場合には、キャプチャー項目を除去しているユーザーに警告メッセージを送ります。これは、プルーニング制御テーブルからレコードを取り出すことによって行われます。その各レコードは、実行された適用処理のインスタンスを示しています。登録に対するサブスクリプションも確実に除去されるようにするのは、キャプチャー項目を除去しているユーザーの責任です。

このコマンドは、i5/OS環境のみをサポートし、DATAPROPAGATORをサポートする他のデータベースはサポートしません。

- 注：項目が画面自身またはヘルプ情報にアスタリスクを付けて表示されていない場合には、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

---

## RMVDPRREGのエラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN2501

テーブルの登録を認可されていません。

#### ASN3253

テーブルの登録が見つかりません。

#### ASN3260

DPRの登録が除去できません。

#### ASN4501

登録テーブルが見つからなかったか、オープンに失敗しました。

[トップ](#)

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CAPCTLLIB	キャプチャー制御ライブラリー	名前, <u>ASN</u>	オプション
SRCTBL	ソース・テーブル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ソース・テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	

[トップ](#)

---

## キャプチャー制御ライブラリー (CAPCTLLIB)

キャプチャー制御テーブルが入っているライブラリーを指定します。

**ASN**    キャプチャー制御テーブルが入っている省略時のライブラリーであるASNを指定します。

### ライブラリー名

キャプチャー制御テーブルが入っているライブラリーの名前。このライブラリーは、存在しており、CRTDPRTBLコマンドのCAPCTLLIBパラメーターを使用して作成されていることが必要です。

トップ

---

## ソース・テーブル (SRCTBL)

除去するソース・テーブルの登録を識別します。これは必須パラメーターです。

### ライブラリー／テーブル名

登録済みソース・テーブルの修飾名。

トップ

---

## 例

なし

トップ

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN2501

テーブルの登録を認可されていません。

#### ASN3253

テーブルの登録が見つかりません。

#### ASN3260

DPRの登録が除去できません。

#### ASN4501

登録テーブルが見つからなかったか、オープンに失敗しました。

トップ



---

## DPRサブスクリプションの除去 (RMVDPRSUB)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

DPRサブスクリプション除去(RMVDPRSUB)コマンドは、指定の適用修飾子およびセット名のためのサブスクリプション制御テーブルから、関連した項目を除去します。要求された項目がテーブル中に見つからない場合には、このコマンドがエラー・メッセージを出します。

DLTTGTTBLパラメーターを使用して、このサブスクリプションと関連したターゲット・テーブルを削除することができます。

サブスクリプションが作成された時にターゲット・テーブルがソース・テーブルとして登録されていた場合には、RMVREGパラメーターを使用して、そのターゲット・テーブルに対する登録を除去することができます。

このコマンドは、i5/OS環境のみをサポートし、DATAPROPAGATORをサポートする他のデータベースはサポートしません。

- ・ 注：項目が画面自身またはヘルプ情報にアスタリスクを付けて表示されていない場合には、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

---

## RMVDPRSUBのエラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN2501

テーブルの登録を認可されていません。

#### ASN3221

RMVCAPE(\*NO)で、DLTTGTFILE(\*YES)は使用できません。

#### ASN3239

ターゲット・テーブルに対する登録が除去できません。

#### ASN3240

ターゲット・テーブルに対する登録が除去できません。

#### ASN3242

テーブルのデータ・サーバーに登録が見つかりません。

#### ASN3243

ターゲット・テーブルに対する登録が除去できません。

#### ASN3244

ターゲット・テーブルはソース・テーブルとして登録されているので削除できません。

#### ASN3245

ライブラリーのターゲット・テーブルが削除できませんでした。

#### ASN3246

への接続に失敗したために、ソース・テーブルの登録は変更されていません。

**ASN3247**

への接続に失敗したために、ターゲット・テーブルの登録は除去されていません。

**ASN3250**

ライブラリーのターゲット・テーブルは削除されています。

**ASN3252**

サブスクリプションが見つかりません。

**ASN3255**

適用修飾子セット名のサブスクリプション・セットが除去されました。

**ASN3256**

サブスクリプション・セット・テーブルは認可されていません。

**ASN3257**

サブスクリプション・メンバー・テーブルは認可されていません。

**ASN3258**

サブスクリプション・カラム・テーブルは認可されていません。

**ASN3259**

サブスクリプション・ステートメント・テーブルは認可されていません。

**ASN3263**

プルーニング制御テーブルは認可されていません。

**ASN3264**

適用修飾子のサブスクリプション・セットにはメンバーが含まれています。

**ASN3272**

メンバーは除去できません。

**ASN3292**

登録テーブルが見つかりませんでした。

**ASN3293**

プルーニング制御テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4512**

サブスクリプション設定テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4514**

サブスクリプション・ステートメント・テーブルが見つけられませんでした。

**ASN4518**

サブスクリプション・メンバー・テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4520**

サブスクリプション・カラム・テーブルが見つかりませんでした。

[トップ](#)

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
APYQUAL	修飾子の適用	名前	必須, 定位置 1

キーワード	記述	選択項目	注
SETNAME	セット名	名前	必須, 定位置 2
CTLSVR	制御サーバー	名前, <u>*LOCAL</u>	オプション
RMVMBRS	メンバーの除去	*YES, <u>*NO</u>	オプション
RMVREG	DPR登録の除去	*YES, <u>*NO</u>	オプション
DLTTGTTBL	ターゲット・テーブルの除去	*YES, <u>*NO</u>	オプション

トップ

---

## 修飾子の適用 (APYQUAL)

適用修飾子を指定します。この適用修飾子は、同じ適用インスタンスによって実行されるサブスクリプションをグループ化するために使用される名前です。適用修飾子は、IBMSNAP\_SUBS\_SETテーブル中にすでに存在していなければなりません。

トップ

---

## セット名 (SETNAME)

適用プログラムによりグループとして処理される、ターゲット・テーブルのグループ（サブスクリプション・セット・メンバー）を識別するセット名を指定します。セット名は、IBMSNAP\_SUBS\_SETテーブル中にすでに存在していなければなりません。

トップ

---

## 制御サーバー (CTLSVR)

適用制御テーブルが存在しているリレーショナル・データベース名。これは、制御サーバーのリレーショナル・データベース名です。

### \*LOCAL

適用制御テーブルは、ローカル・リレーショナル・データベースにあります。

### **RDB名**

適用制御テーブルが常駐しているリレーショナル・データベース名。RDBディレクトリー項目処理 (WRKRDBDIRE) コマンドをデータ・サーバー上で使用して、この名前を検索することができます。適用制御テーブルが、ADDDPRSUB コマンドの実行されているシステム上にある場合には、RDB名はそれと関連した\*LOCALのリモート・ロケーションを持つリレーショナル・データベース名です。

トップ

---

## メンバーの除去 (RMVMBRS)

セットのすべてのメンバーを除去するかどうかを指定します。

\*NO メンバーは除去されず、セット定義のみが除去されます。セット中にメンバーが存在していると、コマンドは失敗します。

\*YES セットのすべてのメンバーが除去されます。

[トップ](#)

---

## DPR登録の除去 (RMVREG)

ターゲット・テーブルの登録を除去する必要があるかどうかを指定します。

**\*NO** ターゲット・テーブルの登録は除去されません。

**\*YES** ターゲット・テーブルの登録が除去されます。ターゲット・テーブルがソース・テーブルとして登録されていて、その登録と関連したプルーニング制御テーブルが空である場合には、ASN/IBMSNAP\_REGISTERテーブルから項目が除去されます。

[トップ](#)

---

## ターゲット・テーブルの除去 (DLTTGTTBL)

サブスクリプションが除去された後に、ターゲット・テーブルを削除するかどうかを指定します。

**\*NO** ターゲット・テーブルが削除されることはありません。

**\*YES** ターゲット・テーブルは削除されるはずです。

[トップ](#)

---

## 例

なし

[トップ](#)

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN2501

テーブルの登録を認可されていません。

#### ASN3221

RMVCAPE(\*NO)で、DLTTGTFILE(\*YES)は使用できません。

#### ASN3239

ターゲット・テーブルに対する登録が除去できません。

#### ASN3240

ターゲット・テーブルに対する登録が除去できません。

#### ASN3242

テーブルのデータ・サーバーに登録が見つかりません。

#### ASN3243

ターゲット・テーブルに対する登録が除去できません。

- ASN3244**  
ターゲット・テーブルはソース・テーブルとして登録されているので削除できません。
- ASN3245**  
ライブラリーのターゲット・テーブルが削除できませんでした。
- ASN3246**  
への接続に失敗したために、ソース・テーブルの登録は変更されていません。
- ASN3247**  
への接続に失敗したために、ターゲット・テーブルの登録は除去されていません。
- ASN3250**  
ライブラリーのターゲット・テーブルは削除されています。
- ASN3252**  
サブスクリプションが見つかりません。
- ASN3255**  
適用修飾子セット名のサブスクリプション・セットが除去されました。
- ASN3256**  
サブスクリプション・セット・テーブルは認可されていません。
- ASN3257**  
サブスクリプション・メンバー・テーブルは認可されていません。
- ASN3258**  
サブスクリプション・カラム・テーブルは認可されていません。
- ASN3259**  
サブスクリプション・ステートメント・テーブルは認可されていません。
- ASN3263**  
プルーニング制御テーブルは認可されていません。
- ASN3264**  
適用修飾子のサブスクリプション・セットにはメンバーが含まれています。
- ASN3272**  
メンバーは除去できません。
- ASN3292**  
登録テーブルが見つかりませんでした。
- ASN3293**  
プルーニング制御テーブルが見つかりませんでした。
- ASN4512**  
サブスクリプション設定テーブルが見つかりませんでした。
- ASN4514**  
サブスクリプション・ステートメント・テーブルが見つけられませんでした。
- ASN4518**  
サブスクリプション・メンバー・テーブルが見つかりませんでした。
- ASN4520**  
サブスクリプション・カラム・テーブルが見つかりませんでした。

[トップ](#)

---

## DPR サブスクリプション・メンバーの除去 (RMVDPRSUBM)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

DPRサブスクリプション・メンバー除去(RMVDPRSUBM)コマンドは、指定されたセットのためのサブスクリプション制御テーブルからメンバーを除去します。要求された項目がテーブル中に見つからない場合には、このコマンドがエラー・メッセージを出します。

DLTTGTTBLパラメーターを使用して、このサブスクリプションと関連したターゲット・テーブルを削除することができます。サブスクリプションが作成された時にターゲット・テーブルがソース・テーブルとして登録されていた場合には、RMVREGパラメーターを使用して、そのターゲット・テーブルに対する登録を除去することができます。

このコマンドは、i5/OS環境のみをサポートし、DATAPROPAGATORをサポートする他のデータベースはサポートしません。

- ・ 注：項目が画面自身またはヘルプ情報にアスタリスクを付けて表示されていない場合には、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

---

## ADDDPRSUBMのエラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN2501

テーブルの登録を認可されていません。

#### ASN3221

RMVCAPE(\*NO)で、DLTTGTFILE(\*YES)は使用できません。

#### ASN3239

ターゲット・テーブルに対する登録が除去できません。

#### ASN3240

ターゲット・テーブルに対する登録が除去できません。

#### ASN3242

テーブルのデータ・サーバーに登録が見つかりません。

#### ASN3243

ターゲット・テーブルに対する登録が除去できません。

#### ASN3244

ターゲット・テーブルはソース・テーブルとして登録されているので削除できません。

#### ASN3245

ライブラリーのターゲット・テーブルが削除できませんでした。

#### ASN3246

への接続に失敗したために、ソース・テーブルの登録は変更されていません。

**ASN3247**

への接続に失敗したために、ターゲット・テーブルの登録は除去されていません。

**ASN3252**

サブスクリプションが見つかりません。

**ASN3256**

サブスクリプション・セット・テーブルは認可されていません。

**ASN3257**

サブスクリプション・メンバー・テーブルは認可されていません。

**ASN3258**

サブスクリプション・カラム・テーブルは認可されていません。

**ASN3263**

プルーニング制御テーブルは認可されていません。

**ASN3270**

メンバーが存在しません。

**ASN3272**

メンバーは除去できません。

**ASN3292**

登録テーブルが見つかりませんでした。

**ASN3293**

プルーニング制御テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4512**

サブスクリプション設定テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4518**

サブスクリプション・メンバー・テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4520**

サブスクリプション・カラム・テーブルが見つかりませんでした。

[トップ](#)

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
APYQUAL	修飾子の適用	名前	必須, 定位置 1
SETNAME	セット名	名前	必須, 定位置 2
TGTTBL	ターゲット・テーブル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 3
	修飾子 1: ターゲット・テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
CTLSVR	制御サーバー	名前, * <b>LOCAL</b>	オプション
RMVREG	DPR登録の除去	* <b>YES</b> , * <b>NO</b>	オプション
DLTTGTTBL	ターゲット・テーブルの除去	* <b>YES</b> , * <b>NO</b>	オプション

[トップ](#)



---

## 修飾子の適用 (APYQUAL)

適用修飾子を指定します。この適用修飾子は、同じ適用インスタンスによって実行されるサブスクリプションをグループ化するために使用される名前です。適用修飾子は、IBMSNAP\_SUBS\_SETテーブル中にすでに存在していなければなりません。

[トップ](#)

---

## セット名 (SETNAME)

適用プログラムによりグループとして処理される、ターゲット・テーブルのグループ（サブスクリプション・セット・メンバー）を識別するセット名を指定します。セット名は、IBMSNAP\_SUBS\_SETテーブル中にすでに存在していなければなりません。

[トップ](#)

---

## ターゲット・テーブル (TGTTBL)

サブスクリプション・セットから除去するターゲット・テーブル・メンバーを指定します。

**ライブラリー／ターゲット・テーブル名**  
ターゲット・テーブルの修飾名。

[トップ](#)

---

## 制御サーバー (CTLSVR)

適用制御テーブルが存在しているリレーショナル・データベース名。これは、制御サーバーのリレーショナル・データベース名です。

### **\*LOCAL**

適用制御テーブルは、ローカル・リレーショナル・データベースにあります。

### **RDB名**

適用制御テーブルが常駐しているリレーショナル・データベース名。RDBディレクトリー項目処理 (WRKRDBDIRE) コマンドをデータ・サーバー上で使用して、この名前を検索することができます。適用制御テーブルが、ADDDPRSUB コマンドの実行されているシステム上にある場合には、RDB名はそれと関連した\*LOCALのリモート・ロケーションを持つリレーショナル・データベース名です。

[トップ](#)

---

## DPR登録の除去 (RMVREG)

ターゲット・テーブルの登録を除去するかどうかを指定します。

**\*NO** ターゲット・テーブルの登録は除去されません。

**\*YES** ターゲット・テーブルの登録が除去されます。ターゲット・テーブルがソース・テーブルとして登

録されていて、その登録と関連したプルーニング制御テーブルが空である場合には、ASN/IBMSNAP\_REGISTERテーブルから項目が除去されます。

[トップ](#)

---

## ターゲット・テーブルの除去 (DLTTGTTBL)

サブスクリプションが除去された後に、ターゲット・テーブルを削除するかどうかを指定します。

**\*NO** ターゲット・テーブルが削除されることはありません。

**\*YES** ターゲット・テーブルは削除されるはずです。

[トップ](#)

---

## 例

なし

[トップ](#)

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN2501

テーブルの登録を認可されていません。

#### ASN3221

RMVCAPE(\*NO)で、DLTTGTFILE(\*YES)は使用できません。

#### ASN3239

ターゲット・テーブルに対する登録が除去できません。

#### ASN3240

ターゲット・テーブルに対する登録が除去できません。

#### ASN3242

テーブルのデータ・サーバーに登録が見つかりません。

#### ASN3243

ターゲット・テーブルに対する登録が除去できません。

#### ASN3244

ターゲット・テーブルはソース・テーブルとして登録されているので削除できません。

#### ASN3245

ライブラリーのターゲット・テーブルが削除できませんでした。

#### ASN3246

への接続に失敗したために、ソース・テーブルの登録は変更されていません。

#### ASN3247

への接続に失敗したために、ターゲット・テーブルの登録は除去されていません。

**ASN3252**

サブスクリプションが見つかりません。

**ASN3256**

サブスクリプション・セット・テーブルは認可されていません。

**ASN3257**

サブスクリプション・メンバー・テーブルは認可されていません。

**ASN3258**

サブスクリプション・カラム・テーブルは認可されていません。

**ASN3263**

プルーニング制御テーブルは認可されていません。

**ASN3270**

メンバーが存在しません。

**ASN3272**

メンバーは除去できません。

**ASN3292**

登録テーブルが見つかりませんでした。

**ASN3293**

プルーニング制御テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4512**

サブスクリプション設定テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4518**

サブスクリプション・メンバー・テーブルが見つかりませんでした。

**ASN4520**

サブスクリプション・カラム・テーブルが見つかりませんでした。

[トップ](#)



---

## DPR権限の取り消し (RVKDPRAUT)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

DPR権限取り消し(RVKDPRAUT)コマンドは、DATAPROPAGATOR制御テーブルに対する\*ALL権限を取り消して、すべての登録済み基本ファイルに対する指定されたサブスクリイパーの権限を除去します。ユーザーは、ファイルに対して登録またはサブスクリプションを行うことができなくなります。

キャプチャーまたは適用処理の実行中、あるいはソース・テーブルを使用しているアプリケーションが活動状態の時には、RVKDPRAUTコマンドを実行することはできません。これは、使用中のファイルの権限を変更することができないためです。

コマンドに指定されたユーザーが存在していない場合、コマンドを実行中のユーザーに指定されたユーザー・プロファイルが認可されていない場合、DATAPROPAGATOR制御テーブルが存在していない場合、あるいはコマンドを実行中のユーザーがDATAPROPAGATOR制御テーブル用に対する権限を認可する許可を得ていない場合には、コマンドはエラー・メッセージを出します。

- 注: 項目が画面自身またはヘルプ情報にアスタリスクを付けて表示されていない場合には、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

---

## RVKDPRAUTのエラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN3012

登録権限を取り消すことはできません。

#### ASN3014

サブスクリプション権限を取り消すことはできません。

#### ASN3096

権限が取り消されました。取り消されなかったオブジェクトがあります。

#### ASN3098

サブスクリプション権限が取り消されました。取り消されなかったオブジェクトがあります。

トップ

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USER	ユーザー	単一値: *PUBLIC その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
CAPCTLLIB	キャプチャー制御ライブラリー	名前, <u>ASN</u>	オプション

トップ

---

## ユーザー (USER)

登録担当者またはサブスクライバーの権限が必要でないユーザーを識別します。

### ユーザー名

以後登録者またはサブスクライバー権限を持たない最大50までの指定したユーザーの名前。

### \*PUBLIC

特定権限を持っていない、権限リスト上にない、およびそのグループ・プロファイルが権限を持っていない、すべてのユーザーから権限が取り消されます。

[トップ](#)

---

## キャプチャー制御ライブラリー (CAPCTLLIB)

権限を取り消すキャプチャー制御ライブラリーの名前を指定します。

**ASN** DATAPROPAGATOR ISERIES用プロダクトによって提供された省略時のキャプチャー・インスタンスを指定します。

### キャプチャー・インスタンス名

権限を取り消すキャプチャー制御ライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

---

## 例

なし

[トップ](#)

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN3012

登録権限を取り消すことはできません。

#### ASN3014

サブスクリプション権限を取り消すことはできません。

#### ASN3096

権限が取り消されました。取り消されなかったオブジェクトがあります。

#### ASN3098

サブスクリプション権限が取り消されました。取り消されなかったオブジェクトがあります。

[トップ](#)

---

## DPR適用の開始 (STRDPRAPY)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

DPR適用開始(STRDPRAPY)コマンドは、コピー・サーバーでDATAPROPAGATOR FOR ISERIES適用処理のインスタンスを開始します。

- 注: 項目が画面自身またはヘルプ情報にアスタリスクを付けて表示されていない場合には、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

---

## STRDPRAPYのエラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN1502

ローカル・リレーショナル・データベース名を見つけることができません。

#### ASN1503

適用修飾子""は制約された値です。

#### ASN1504

制御サーバーで適用修飾子""にサブスクリプションが定義されていません。

#### ASN1505

サブスクリプション設定テーブルASN.IBMSNAP\_SUBS\_SETが見つかりませんでした。

#### ASN1506

適用ジョブ・テーブル (ライブラリーASN中のIBMSNAP\_APPLY\_JOB) を作成できません。

#### ASN1507

ライブラリーASN中の適用ジョブ・テーブルIBMSNAP\_APPLY\_JOBが使用可能ではありません。

#### ASN1513

適用ジョブ・テーブルに適用ジョブ・レコードが見つかりませんでした。

#### ASN1516

適用修飾子""にサブスクリプションが存在するかどうかを検査できません。

#### ASN1517

制御サーバーへの接続が正常に行われませんでした。

#### ASN1518

IBMSNAP\_APPLY\_JOBテーブルの読み取り、または変更することができません。

#### ASN1519

STRDPRAPYコマンドが正常に実行されませんでした。

#### ASN4524

適用ジョブ・テーブルが見つかりませんでした。

#### ASN2060

ライブラリーをライブラリー・リストのシステム部分で使用することはできません。

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USER	ユーザー	名前, <u>*CURRENT</u> , *JOB	オプション, 位置 1
JOB	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 2
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QZSNDR</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u>	
APYQUAL	修飾子の適用	文字値, <u>*USER</u>	オプション, 位置 3
CTLSVR	制御サーバー	文字値, <u>*LOCAL</u>	オプション, 位置 4
TRACE	トレース	<u>*NONE</u> , *ERROR, *ALL, *PRF, *REWORK	オプション, 位置 5
FULLREFPGM	全更新プログラム	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 位置 6
	修飾子 1: 全更新プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
SUBNFYPGM	サブスクリプション通知PGM	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 位置 7
	修飾子 1: サブスクリプション通知PGM	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
INACTMSG	非活動メッセージ	<u>*YES</u> , *NO	オプション, 位置 8
ALWINACT	非活動状態可能	<u>*YES</u> , *NO	オプション, 位置 9
DELAY	遅延	0-6, <u>6</u>	オプション, 位置 10
RTYWAIT	再試行待機時間	0-35000000, <u>300</u>	オプション, 位置 11
COPYONCE	一度コピー	*YES, <u>*NO</u>	オプション, 位置 12
TRLREUSE	証跡の再使用	*YES, <u>*NO</u>	オプション, 位置 13
OPTSNGSET	単一セットの最適化	*YES, <u>*NO</u>	オプション, 位置 14

## ユーザー (USER)

適用処理が開始されるユーザーの名前を指定します。このユーザーには、指定されたユーザー・プロファイルに対する\*USE権限が必要です。



これは、適用処理が実行される時のユーザー・プロファイルです。サブスクリプション制御テーブル(ASN中)は、CTLSVRパラメーターによって指定されたリレーショナル・データベース(RDB)にあります。USERパラメーターに指定された値と関係なく、同じサブスクリプション制御テーブルが使用されます。

#### **\*CURRENT**

適用処理のこの識別情報と関連したユーザーは、現行ジョブと関連したユーザーです。

#### **\*JOBID**

適用処理のこの識別情報と関連したユーザーは、ジョブ記述に指定されたユーザーです。ジョブ記述にUSER(\*RQD)を指定することはできません。

#### **ユーザー名**

指定されたユーザーは、適用処理のこのインスタンスに関連づけられたユーザーです。このパラメーターには、次のIBM提供オブジェクトは正しくありません。

- QDBSHR
- QDFTOWN
- QDOC
- QLPAUTO
- QLPINSTALL
- QRJE
- QSECOFR
- QSPL
- QSYS
- QTSTRQS

上記のいずれかのユーザーがサブスクリプションを追加している場合には、そのユーザー名でサイン・オンしたユーザーによってSTRDPRAPYコマンドが実行されなければなりません。

トップ

---

## **ジョブ記述 (JOBID)**

適用処理の投入時に使用するジョブ記述の名前を指定します。

#### **\*LIBL/QZSNDPR**

プロダクトによって提供される省略時のジョブ記述。

#### **ジョブ記述名**

適用処理に使用されるジョブ記述の名前 (ライブラリー名/ジョブ記述名)。

#### **\*LIBL/ジョブ記述名**

適用処理に使用されるジョブ記述の名前。

トップ

---

## **修飾子の適用 (APYQUAL)**

適用で使用される適用修飾子を指定します。この適用修飾子によって一緒グループ化されているすべてのサブスクリプションは、この適用インスタンスによって実行されています。

## **\*USER**

USERパラメーターに指定するユーザー名は、適用修飾子です。

### **適用修飾子**

この適用インスタンスによって実行されるサブスクリプションをグループ化するために使用される名前を指定します。適用修飾子名には最大18文字を指定することができます。この名前は、RDB名と同じ命名規則に従っています。実行されるサブスクリプションは、IBMSNAP\_SUBS\_SETテーブル中でAPPLY\_QUALカラムにこの値を持つレコードによって識別されます。

トップ

---

## **制御サーバー (CTLSVR)**

サブスクリプション制御テーブルがあるリレーショナル・データベースの名前。これは、制御サーバーのリレーショナル・データベース名です。

## **\*LOCAL**

サブスクリプション制御テーブルは、ローカル・リレーショナル・データベースにあります。

### **RDB名**

リレーショナル・データベース名。このパラメーターでF4（プロンプト）キーを押してRDBディレクトリー中のRDBのリストを表示し、その中から選択することができます。RDBディレクトリー項目処理(WRKRDBDIRE)コマンドを使用して、この名前を検索することもできます。

トップ

---

## **トレース (TRACE)**

このパラメーターは、適用でトレースを生成するかどうかを指定します。適用でトレースを生成する場合には、そのトレースは、QPZSNATRCと呼ばれるスプール・ファイルに送られます。

## **\*NONE**

トレースは実行されません。

## **\*ERROR**

トレースには、エラー情報のみが含まれます。

**\*ALL** トレースには、エラー、実行の流れ、および適用によって出されたSQLステートメントについての情報が含まれます。

**\*PFR** トレースには、適用実行の各種の段階におけるパフォーマンスを分析するために使用できる情報が含まれます。

トップ

---

## **全更新プログラム (FULLREFPGM)**

適用でターゲット・テーブルを全面再生成するのにユーザー拡張プログラムが実行されるかどうかを指定します。適用でターゲット・テーブルの全面再生成が必要であることが判断された時には、全面再生成そのものではなく、指定されたユーザー拡張プログラムが実行されます。適用で全面再生成ユーザー拡張プログラムが使用される時には、適用監査証跡レコードのASNLOADカラムには値の'Y'が入ります。

#### **\*NONE**

ユーザー拡張プログラムは実行されません。

#### **プログラム名**

適用でターゲット・テーブルの全面再生成が必要であると判断された時に呼び出されるプログラムの修飾名。

トップ

---

### **サブスクリプション通知PGM (SUBNFYPGM)**

サブスクリプション・セットの処理が完了した時に、適用でユーザー拡張プログラムが実行されるかどうかを指定します。通知プログラムを使用して"CAPCTLLIB".IBMSNAP\_UOWテーブルを調べることができます。また、拒否されたトランザクションを判別し、メッセージの提示またはイベントの生成など、その後の処置をとることができます。

#### **\*NONE**

ユーザー拡張プログラムは実行されません。

#### **プログラム名**

適用でサブスクリプション・セットの処理が完了した時に呼び出されるプログラムの修飾名。

トップ

---

### **非活動メッセージ (INACTMSG)**

作業が完了し、一定時間非活動状態になっている時に必ず適用でメッセージを生成するかどうかを指定します。

**\*NO**   メッセージは生成されません。

**\*YES**   一定時間の非活動状態が始まる前に適用でASN1044メッセージが生成されます。ASN1044メッセージは、適用処理が非活動状態になっている時間の長さを示します。

トップ

---

### **非活動状態可能 (ALWINACT)**

適用処理を非活動状態（静止状態）にできるかどうかを指定します。

**\*YES**   処理するものが何もない場合に適用処理を静止状態にすることができます。

**\*NO**    処理するものが何もなくなくなると、適用処理が終了します。

トップ

---

### **遅延 (DELAY)**

連続複製が使用される場合の、各適用プログラム・サイクルの終了時の遅延時間（秒数）を指定します。

**6**       6秒の遅延時間を指定します。

## 遅延時間

0 から 6 秒の範囲の遅延時間を指定します。

[トップ](#)

---

## 再試行待機時間 (RTYWAIT)

適用プログラムがエラーを見つけてから、失敗した操作を再試行するまで待機する必要がある長さを秒数で指定します。

**300** 300秒の再試行待機時間を指定します。

### 再試行待機時間

0から35000000秒の範囲の待機時間を指定します。

[トップ](#)

---

## 一度コピー (COPYONCE)

適用プログラムは、その適用プログラムが起動された時点で適格な各サブスクリプション・セットについて 1つのコピー・サイクルを実行し、その後で適用プログラムは終了します。適格なサブスクリプション・セットとは次のようなものです。

ACTIVE > 0

REFRESH\_TIMING = RまたはBであるか、あるいはREFRESH\_TIMING = Eで、指定されたイベントが起こっています。

MAX\_SYNCH\_MINUTESおよびEND\_OF\_PERIODが指定された場合には、それが尊重されます。

**\*NO** COPYONCEは使用されないことを指定します。

**\*YES** COPYONCEが有効となることを指定します。

[トップ](#)

---

## 証跡の再使用 (TRLREUSE)

適用プログラムは、それが開始された時に適用証跡テーブルを空にします。

**\*NO** TRLREUSEは使用されないことを指定します。

**\*YES** TRLREUSEが有効となることを指定します。

[トップ](#)

---

## 単一セットの最適化 (OPTSNGSET)

1つのサブスクリプション・セットのみが存在する場合に、適用のパフォーマンスを最適化することを指定します。このパラメーターが指定され、処理するセットが前のセットと同じである場合には、適用によって、メンバーおよびカラム情報が制御テーブルから再度取り出されることはありません。このオプションはREPLICAには適用されません。

\***NO** OPTSNGSETは使用されないことを指定します。

\***YES** OPTSNGSETが有効となることを指定します。

[トップ](#)

---

## 例

なし

[トップ](#)

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### **ASN1502**

ローカル・リレーショナル・データベース名を見つけることができません。

#### **ASN1503**

適用修飾子"*'''*"は制約された値です。

#### **ASN1504**

制御サーバーで適用修飾子"*'''*"にサブスクリプションが定義されていません。

#### **ASN1505**

サブスクリプション設定テーブルASN.IBMSNAP\_SUBS\_SETが見つかりませんでした。

#### **ASN1506**

適用ジョブ・テーブル（ライブラリーASN中のIBMSNAP\_APPLY\_JOB）を作成できません。

#### **ASN1507**

ライブラリーASN中の適用ジョブ・テーブルIBMSNAP\_APPLY\_JOBが使用可能ではありません。

#### **ASN1513**

適用ジョブ・テーブルに適用ジョブ・レコードが見つかりませんでした。

#### **ASN1516**

適用修飾子"*'''*"にサブスクリプションが存在するかどうかを検査できません。

#### **ASN1517**

制御サーバーへの接続が正常に行われませんでした。

#### **ASN1518**

IBMSNAP\_APPLY\_JOBテーブルの読み取り、または変更することができません。

#### **ASN1519**

STRDPRAPYコマンドが正常に実行されませんでした。

#### **ASN4524**

適用ジョブ・テーブルが見つかりませんでした。

#### **ASN2060**

ライブラリーをライブラリー・リストのシステム部分で使用することはできません。

[トップ](#)



---

## DPRキャプチャーの開始 (STRDPRCAP)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

DPRキャプチャー開始(STRDPRCAP)コマンドは、ISERIESデータ・ソース・テーブルに対する変更をキャプチャーする処理を開始します。

キャプチャーしたい変更に関係するファイルを最初に登録しなければなりません。

ファイルは、複製センターまたはDPR登録追加(ADDDPRREG)コマンドを使用して登録します。変更のキャプチャーのために登録したファイルは、"CAPCTLLIB"/IBMSNAP\_REGISTERテーブルの中で定義されます。

リモート・ジャーナル処理を使用するようにソース・テーブルを登録した場合には、ソース・テーブルを登録したのと同じシステムでSTRDPRCAPコマンドを実行しなければなりません。

調整パラメーター・テーブルIBMSNAP\_CAPPARMSの保存限界および遅れ限界の値は、STRDPRCAPコマンドの働きに影響します。これらの設定値はDPRキャプチャー属性変更(CHGDPRCAPA)コマンドを使用して変更することができます。これらの値は、キャプチャー構成要素の開始時に有効となります。キャプチャーが活動状態である間は、DPRキャプチャー属性指定変更(OVRDPRCAPA)コマンドを使用して、キャプチャー調整値を動的に変更することができます。

- ・注：項目が画面自身またはヘルプ情報にアスタリスクを付けて表示されていない場合には、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

---

## STRDPRCAPのエラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN2002

キャプチャー・パラメーター・テーブルが見つかりませんでした。

#### ASN2003

テーブルが登録されていません。

#### ASN2560

キャプチャー・インスタンスはすでに活動状態になっています。

#### ASN2561

キャプチャー・インスタンスは開始中です。

#### ASN2019

キャプチャー・パラメーター・テーブルIBMSNAP\_CAPPARMSが認可されていません。

#### ASN2501

テーブルの登録を認可されていません。

#### ASN2513

STRDPRCAPコマンドが正しく実行されませんでした。

## ASN4501

登録テーブルが見つからなかったか、オープンに失敗しました。

[トップ](#)

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RESTART	終了後に再始動	*YES, *NO	オプション, 位置 1
JOB	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 2
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QZSNDPR</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u>	
WAIT	待機	60-6000, <u>120</u>	オプション, 位置 3
CLNUPITV	終結処置間隔	要素リスト	オプション, 位置 4
	要素 1: 待機時間	1-100, <u>*DFT</u>	
	要素 2: 終結処理の開始	<u>*IMMED</u> , *DELAYED, *NO	
CAPCTLLIB	キャプチャー制御ライブラリー	名前, <u>ASN</u>	オプション, 位置 5
JRN	ジャーナル	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
TRCLMT	トレース限界	1-35000000, <u>*DFT</u>	オプション
MONLMT	モニター限界	1-35000000, <u>*DFT</u>	オプション
MONITV	モニター間隔	60-6000, <u>*DFT</u>	オプション
MEMLMT	メモリー限界	1-35656, <u>*DFT</u>	オプション
RETAIN	保存期間	1-35000000, <u>*DFT</u>	オプション
LAG	遅れ限界	1-35000000, <u>*DFT</u>	オプション
FRCFRQ	強制頻度	30-600, <u>*DFT</u>	オプション

[トップ](#)

## 終了後に再始動 (RESTART)

キャプチャー処理の開始方法を指定します。

**\*YES** キャプチャー処理では、前の終了時の終了位置から変更の処理が続行されます。これは ウォーム・スタート としても知られ、操作の省略時のモードです。

**\*NO** キャプチャー処理では、変更を処理する前に、変更データ・テーブルからすべての情報が除去されます。JRNパラメーターに\*ALLを指定した場合には、また、キャプチャーにより "CAPCTLLIB"/IBMSNAP\_UOWテーブルからすべての情報が除去されます。影響を受けるすべての基本テーブルのサブスクリプションは、変更キャプチャーの再開前に全面再生成されます。これは、コールド・スタート としても知られています。

[トップ](#)



---

## ジョブ記述 (JOBID)

キャプチャー処理の投入時に使用するジョブ記述の名前を指定します。

### \*LIBL/QZSNDPR

DATAPROPAGATOR ISERIES用プロダクトによって提供される省略時のジョブ記述を指定します。

### ジョブ記述名

キャプチャー処理に使用されるジョブ記述の名前（ライブラリー名/ジョブ記述名）を指定します。

[トップ](#)

---

## 待機 (WAIT)

キャプチャー処理でその状況が検査されるまで待機する最大秒数を指定してください。この値を使用して、キャプチャー処理のパフォーマンスを調整することができます。低い値の場合には、キャプチャー処理が終了または初期設定までに要する時間は短縮されますが、システム・パフォーマンスに影響する可能性があります。より高い値の場合には、キャプチャー処理が終了または初期設定までに要する時間は増加しますが、システム・パフォーマンスは向上します。高すぎる値の場合には、キャプチャー処理で定期的な処理が実行される一方、結果としてパフォーマンスは低下する可能性があります。パフォーマンスがどれだけ低下するかは、登録済みファイルに対する変更活動の量およびシステム上で行われている他の作業の量によって異なります。

**120**     キャプチャー処理が待機する省略時の最大秒数。

### 60-6000

キャプチャー処理に待機させたい最大秒数を指定してください。

[トップ](#)

---

## 終結処置間隔 (CLNUPITV)

変更データ・テーブルおよびその他のテーブルから古いレコードをプルーニングする前にキャプチャー処理が待機する最大時間数を指定します。

このパラメーターは、RETAINパラメーター(CD, UOW, SIGNALテーブルおよびAUTHKNテーブルの場合)、TRCLMTパラメーター(CAPTRACEテーブルの場合)、およびMONLMTパラメーター(CAPMONテーブルの場合)とともに機能します。このパラメーターがプルーニングの頻度を決定するのに対して、他の3つのパラメーターは、古い行がプルーニングに適格かどうかを決定します。

ユーザーがRETAIN, TRCLMT, MONLMT,およびCLNUPITVパラメーターのそれぞれに省略時の値を選択した場合に、STRDPRCAPコマンドでは、CAPPARMSテーブルに保管されている値RETENTION\_LIMIT, TRACE\_LIMIT, MONITOR\_LIMIT, およびPRUNE\_INTERVALが使用されます。ユーザーは、これらの限界に対する新しい値をSTRDPRCAPコマンドに指定することができます。あるいは、キャプチャーの実行中にOVRDPRCAPコマンドを使用して、これらの値を後から変更することができます。

このパラメーターに指定した時間間隔で、キャプチャー処理はプルーニング・セット・テーブルからの情報を使用して、変更データ・テーブル中のプルーニングに適格なレコードを決定します。

これは、2つの部分からなる値です。最初の部分は、レコードのプルーニングの前にキャプチャー処理で待機する時間数を指定します。

**\*DFT** CLNUPITVパラメーターに省略時の値が使用されることを指定します。省略時の値は、キャプチャー調整テーブル("CAPCTLLIB/IBMSNAP\_CAPPARMS)のPRUNE\_INTERVALカラムの値です。この値は、DPRキャプチャー属性変更(CHGDPRCAPA)コマンドのCLNUPITVパラメーターを変更することによって、変更することができます。

**24** キャプチャー処理が待機する省略時の最大秒数。

**1-100** キャプチャー処理に待機させたい最大秒数を指定してください。

2番目の部分は、レコードのプルーニングを行いたいかどうか、あるいは変更のキャプチャーの直前にキャプチャー処理でレコードのプルーニングを行いたいかどうかを指定します。

**\*IMMED**

キャプチャー処理でデータ変更テーブルから古いレコードがプルーニングされてから、選択されたファイルの変更のキャプチャーが開始されます。

**\*DELAYED**

キャプチャー処理で指定された時間待機してから、データ変更テーブルから古いレコードがプルーニングされます。

**\*NO** キャプチャー処理でレコードのプルーニングは行われません。

[トップ](#)

---

## キャプチャー制御ライブラリー (CAPCTLLIB)

キャプチャー処理の投入時に使用するキャプチャー制御ライブラリーの名前を指定します。キャプチャー制御ライブラリーには、ソース・テーブルが登録済みの制御テーブルが含まれています。

**ASN** DATAPROPAGATOR ISERIES用プロダクトによって提供される省略時のキャプチャー制御ライブラリーを指定します。

**キャプチャー制御ライブラリー名**

キャプチャー処理に使用されるキャプチャー制御ライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

---

## ジャーナル (JRN)

キャプチャー処理で処理したい最大50個のジャーナルからなるリストを指定します。キャプチャーは、指定された1つまたは複数のジャーナルに現在ジャーナル処理されているすべての登録済みテーブルの処理を開始します。

**\*ALL** キャプチャーは、ジャーナル処理された登録済みテーブルを持つすべてのジャーナルの処理を開始します。

**ライブラリー名/ジャーナル名**

キャプチャー処理で処理したいジャーナルの修飾名を指定してください。

[トップ](#)

---

## トレース限界 (TRCLMT)

トレース限界を指定します。プルーニング時には、このトレース限界より古いトレース・テーブル IBMSNAP\_CAPTRACEの項目がプルーニングされます。

**\*DFT** IBMSNAP\_CAPPARMSからの値を使用します。

### トレース限界

トレース・データがプルーニングの後もキャプチャー・トレース・テーブルに保持される分数。

[トップ](#)

---

## モニター限界 (MONLMT)

キャプチャー・モニター限界を指定します。プルーニング時には、このモニター限界より古いモニター・テーブル IBMSNAP\_CAPMONの項目がプルーニングされます。

**\*DFT** IBMSNAP\_CAPPARMSからの値を使用します。

### モニター限界

モニター・データがプルーニングの後もモニター・テーブルに保持される分数。

[トップ](#)

---

## モニター間隔 (MONITV)

モニター間隔を指定します。モニター行には、この値によって指示されたN秒ごとに書き込みが行われません。

**\*DFT** IBMSNAP\_CAPPARMSからの値を使用します。

### モニター間隔

キャプチャーによってモニター行に書き込まれる頻度を指定します。これは秒数で表されます。120秒に満たない値は、すべて省略時の値の120秒となります。

[トップ](#)

---

## メモリー限界 (MEMLMT)

メモリー限界を指定します。各キャプチャー・ジャーナル・ジョブが使用できるメモリー（メガバイト数）です。この割り振り量が使用し尽くされると、キャプチャーのすべての処理データを保管するために一時ファイルが使用されます。

**\*DFT** IBMSNAP\_CAPPARMSからの値を使用します。

### メモリー限界

各キャプチャー・ジャーナル・ジョブが使用できるメモリーの大きさを指定します。

[トップ](#)

---

## 保存期間 (RETAIN)

データが除去される前にCDテーブルおよびUOWテーブルに保存される分数である、保存限界を指定します。

このパラメーターの値はCLNUPITVパラメーターとともに機能します。このCLNUPITVの値に達すると、UOWテーブル行がトランザクションはこのパラメーターの値より古いことを示している場合に、CDおよびUOWテーブル中のデータが除去されます。

RETAINパラメーターの値に達する前に変更された情報をコピーするように、適用間隔が設定されていることを確認してください。これにより、テーブルの不整合が防止されます。テーブルの整合性がなくなった場合には、適用プログラムは完全な再生成を実行します。

**\*DFT** IBMSNAP\_CAPPARMSからの値を使用します。

### 保存限界 (分数)

CDが保存される分数を指定します。

[トップ](#)

---

## 遅れ限界 (LAG)

キャプチャー・プログラムがCDテーブルを消去して変更のキャプチャーを開始するまでに遅延可能な分数である、遅れ限界を指定します。遅れ限界（すなわち、ジャーナル項目の時刻スタンプが現在の時刻から遅れ限界を引いた値より前になる時）に達すると、キャプチャー・プログラムは、遅れすぎて取り戻すことができないと見なします。そして、そのジャーナルに対して処理中であるテーブルについてコールド・スタートを開始します。適用プログラムが完全な再生成を実行して、キャプチャー・プログラムに新しい開始点を提供します。この値は、通常、影響を及ぼさないように高く設定されます。

**\*DFT** IBMSNAP\_CAPPARMSからの値を使用します。

### 遅れ限界 (分数)

CDのキャプチャー処理が遅延可能な分数を指定します。

[トップ](#)

---

## 強制頻度 (FRCFRQ)

キャプチャー・プログラムが変更をCDおよびUOWテーブルに書き込むおおよその頻度を指定します。

キャプチャー・プログラムは、バッファーがいっぱいになるか、あるいはこの時間が満了した時（どちらか早いほう）に、変更を適用プログラムに使用可能にします。

このパラメーターは、ソース・テーブルの変更を、そのソース・テーブルの変更が低率であってもサーバー上の適用プログラムがより簡単に使用できるようにするために使用します。

これはグローバルな値であり、定義されたすべてのソース・テーブルに使用されます。この値を低い数値に設定すると、処理プログラムの使用状況に影響する可能性があります。

### \*DFT (省略時の値)

IBMSNAP\_CAPPARMSからのCOMMIT\_INTERVALの値を使用します。

## 強制頻度 (秒数)

適用プログラムに使用可能にする前に、キャプチャー・プログラムがバッファー・スペースの中でCDテーブルおよびUOWテーブルの変更を保持する秒数を指定します。この値は30-600秒の範囲とすることができます。

[トップ](#)

---

## 例

なし

[トップ](#)

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### ASN2002

キャプチャー・パラメーター・テーブルが見つかりませんでした。

#### ASN2003

テーブルが登録されていません。

#### ASN2560

キャプチャー・インスタンスはすでに活動状態になっています。

#### ASN2561

キャプチャー・インスタンスは開始中です。

#### ASN2019

キャプチャー・パラメーター・テーブルIBMSNAP\_CAPPARMSが認可されていません。

#### ASN2501

テーブルの登録を認可されていません。

#### ASN2513

STRDPRCAPコマンドが正しく実行されませんでした。

#### ASN4501

登録テーブルが見つからなかったか、オープンに失敗しました。

[トップ](#)



---

## 付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711  
東京都港区六本木 3-2-12  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
法務・知的財産  
知的財産権ライセンス渉外

**以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。** IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA  
3605 Highway 52 N  
Rochester, MN 55901  
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. \_年を入れる\_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

---

## プログラミング・インターフェース情報

本書 (DB2 DataPropagator for iSeries V8.1 コマンド) には、プログラムを作成するユーザーが IBM DB2 DataPropagator for iSeries V8.1 のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。



---

## 商標

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Advanced Function Printing  
AFP  
AS/400  
CICS  
COBOL/400  
C/400  
DataPropagator  
DB2  
Distributed Relational Database Architecture  
Lotus Domino  
DRDA  
IBM  
Infoprint  
InfoWindow  
i5/OS  
iSeries  
Integrated Language Environment  
Lotus  
LPDA  
OfficeVision  
Print Services Facility  
RPG/400  
System i  
System x  
SystemView  
System/36  
TCS  
Tivoli  
WebSphere  
z/OS

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、および PostScript ロゴは、米国およびその他の国における Adobe Systems Incorporated の商標または登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

---

## 使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

**個人使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

**商業的使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

---

## コードに関するライセンス情報および特記事項

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

強行法規で除外を禁止されている場合を除き、IBM、そのプログラム開発者、および供給者は「プログラム」および「プログラム」に対する技術的サポートがある場合にはその技術的サポートについて、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、IBM および IBM のサプライヤーならびに IBM ビジネス・パートナーは、その予見の有無を問わず発生した以下のものについて賠償責任を負いません。

1. データの喪失、または損傷。
2. 直接損害、特別損害、付随的損害、間接損害、または経済上の結果的損害
3. 逸失した利益、ビジネス上の収益、あるいは節約すべかりし費用

国または地域によっては、法律の強行規定により、上記の責任の制限が適用されない場合があります。





Printed in Japan